モントリオールへの道

次のオリンピックは、2年後の7月、カナダのモントリオールで行われる。ハンドボールも、ベルリン（一九三六、11人制）ミュンヘン（一九七二）についで史上3度目の実施が決まっている。

本誌では、44年3月（63号）から3年にわたり"ミュンヘンへの道"というコラムを設け、オリンピック参加に関する斯界のさまざまな課題を考えてきたが、モントリオールまであと2年と迫った今月から、改めて新しい目標に向かいオリンピックへの道のりを歩んで行きたいと思う。

ミュンヘンの時もそうであったが、オリンピックへの道は、日本協会にとって唯一無二の道ではない。

ハンドボールの正しい発展と普及を大道とすれば、オリンピックへ通じる一筋は、小道でしかないのである。

しかし、ミュンヘンに参加したことによって、ハンドボールは飛躍的な発展を遂げた。

国内では、この競技を理解する人が増え、国際的にはIHF（国際ハンドボール連盟）へ仲間入りしようとする国が次々と名乗りをあげている。

若いスポーツ・ハンドボールにとって、オリンピックは打出のこずちにも似た"力"を秘めていたのだ。

モントリオールでの採用でいっそうのジャンプを期待するのは当然であり、すべての力をこの一点に結集しようとする考えも間違ってはいまい。

だが、オリンピックは、あくまで"ハンドボールの知名度"を高める方便にすぎないことを忘れると、とんだところへ足を踏みはずしかねない。

さらに、ミュンヘンの時は、特に日本では「初めて」ということで、暖かい目に囲れこの道を歩めた。

2回目のモントリオールにこの甘えは許されない。オリンピック種目としての誇りは、同時に厳しさをも求めている。

小道にはすぎないが、ここで軽薄なマネはできない。

モントリオールへ歩み出す前にミュンヘンに向かっていた頃をもういちどふり返ってみる必要もありそうだ。

信念を持たず第一歩を踏み出すと、栄光の道は一瞬にして茨の道と化そうし、「アジア」という関所を通りこすことさえできなくなるだろう。【この欄への投稿を歓迎します・950字厳守】

市民ハンドボールの芽

「底辺」――近年、スポーツ界でよく聞く言葉だ。「底辺対策を―」とか「底辺に理解を―」とか「底辺の拡大を―」とか使われる。

だが、文字どおりこの言葉の持つ意味は広く深いためだんだんに"底辺への考えかた"がボケてきた。

はじめは（今でもそうなのだが…）、日本ハンドボール協会の底辺は、秀れた競技者を見つけ出すための普及活動、つまり頂点と結びついたものであったハズだ。

ところが、市民スポーツ、スポーツの大衆化などというムードが高まると、それらを含めて底辺という傾向が強まってしまった。

ママさんハンドボールはママさんハンドボール、少年ハンドボールは少年ハンドボールそのものであって、けっして競技力向上事業にかかわりあいなどないハズ、なのにである。

OB、OGによる日曜ハンドボールクラブもいつしか底辺と云われるようになった。

ママさんも少年も日曜クラブも一つのれっきとした個性を持ちながら「底辺」に見えるのはあまりにも、過去の球史が競技力強化オンリーで、スポーツは選手のもの、という考えがはびこりすぎたためであろうか、

少くともハンドボール界だけは底辺とそうでない活動との見分けだけはつけていたいものである。

ところで、貴重で、地道な活動をつづけている市民ハンドボールに対して、日本協会は無策に過ぎないか、という声がある。

しかし、日本協会側からすればあまりにも多様なその活動に画一した線が引きにくいし、前述のクラブなどは、市民ハンドボールである一方、いぜん底辺としての一面も持ちあわせている"複雑な存在"である。

ミニハンドボールの開発や、公認指導員制度など日本協会はそれなりのレベルで施策を検討しているが、あとは「競技団体」である中央機関が、やたらに市民ハンドボールへ"介入"すべきではないと思う。

ただ、オリンピック対策も、市民ハンドボールも同じハンドボール活動だという意識だけはすべての分野で伸ばしていきたい。

この欄がその礎になれば幸である【わが町、わがクラブの活動資料をお寄せ下さい。用紙自由】

「ハンドボール」 49年7月号（第121号）目次

【表紙写真】 日韓学生男子第4戦・成均館大(攻)―関東学生選抜から（6月8日東京体育館）
【撮影・山田真市】

男女頂点強化

技術部が担当して推進

日本協会は5、6月の月例常務理事会で、今後の男女頂点強化について協議していたが、6月中に技術委員会（技術部会）を開き、各ナショナルチームの監督を推せん、両監督が中心となってコーチングスタッフを決め7月初旬には男女の新ナショナルチーム（モントリオール・オリンピック第一次候補選手とする予定）をリストアップすると申し合せた。

これは、今後の男女頂点強化を技術部中心に進めていくのを承認したものでもあり、ミュンヘンオリンピック時に特別設置されたオリンピック対策部のような機関はモントリオールの前にはつくられる可能性がないことをも示している。

男女ナショナルの強化事業を技術部が行ろうとする提案は、今春2月10日の全国評議員会、同理事会で「技術部新機構」として公けにされていた。

技術部は、すでに4月21日の部会（全国委員会）で、今後のナショナルチーム監督、選手選出の基本線を決め、同時に監督、コーチについては、かなり具体的な人選（男女）も行ったようだが、常務理事会は、その審議を棚あげにして、強化対策そのものの基本的な態度固めを進めていた。

その結果、6月15日の月例常務理事会では技術部によるナショナルチーム関係の作業進行を了解するとともに田村会長、荒川理事長が、改めて〝人事問題〟を検討する技術部会の開催を要請、渡辺技術部長も了解した。

技術部会（全国委員会）は6月30日、東京で開かれる予定。

世論の支持ある施策を

（解説）女子の世界選手権（昨年12月）が終って6カ月、男子の世界選手権が終って3カ月、というよりはモントリオール・オリンピックまであと2年、女子にいたっては次の世界選手権まで1年6ケ月というこの時点で、日本協会が牛歩にも似た態度を採っているのは頂点強化対策という大命題をどこが責任をもって担当するか、不明確な点にあった。

ミュンヘン時には、いち早く、選手強化対策本部（のちにオリンピック対策部）を組織し、ナショナルチームの運行を一切引きうけていたが、昨年春の役員改選期に同部は消滅、技術部が預る形を採った。

技術部は、女子については以前から頂点強化を分掌、第4回世界選手権（昭46、オランダ）、第5回世界選手権（昭48、ユーゴ）の監督は同部により推せんされるなど〝実績〟もあったが、男子については、久しぶりの担当というわけだった。

しかし、いちばん肝心なこの点が技術部内に説明不足のうえ、勝繁夫技術部長（常務理事）の退任（昨年7月）などで、技術部の男子頂点強化に関する実質的な動きはほとんどなく、48年度ナショナルチームの監督推せんも、昨年7月、荒川理事長を委員長とする特別委員会によって行われたほどだった。

この間、荒川理事長が、頂点強化専門機関として「強化委員会」構想を公けにしたが実らず、今春の男子世界選手権代表も、結局は選考委員会を設けてリストアップせざるを得なかった。

今春2月、普及部長を兼ねて技術部長を代行していた渡辺(慶)常務理事が、技術部長に専念してから（注・普及部長は宮本酉嗣氏新任）技術部は一気に具体的な施策を発表、ナショナルチームのプロジェクト化という新機構（本誌117号既報）も全国理事会などで承認され、新たに技術・普及・審判3部による「合同会議」の設置が決まった。

ところがこの会議も、2年前の強化対策部をより多彩なスタッフに拡げたもの、という性格づけであったが、研究連絡機関的な色彩が濃くなり、いわゆる〝強化〟との縁はうすくなった。

こうした曲折を得ながら、常務理事会では改めて、同部によって頂点強化対策の立案と、監督の推せんを行うことを確認するとともに、「6月中に技術部会再招集」としたものだ。

まわり道をしながら、ようやく一点にたどりついた印象は否めないが、ナショナルチームのさい配をふるう〝人事権〟がからんでいるだけに、2月の全国会議（評議員会、理事会）で了解はあったものの実際の動きを前に常務理事会は慎重な態度を採りつづけた、と解釈したい。

一方、技術部も、これまでの女子だけから男子の監督指名や強化プランも、よほどのことがない限りそのまま常務理事会—理事会—評議員会をパスしていくことになるわけで、責任はますます重い。

田村会長も2回の常務理事会で重ねて「技術部の立案、推せんを尊重するたてまえが確立された以上、事業計画や人選は広く深い視野で行い、世論の支持を得るものであって欲しい」と要望している

「全日本」が4試合

～モントリオール対策第1弾～

8月31日から東ドイツ招待

日本協会は、6月15日の月例常務理事会で、今秋の東ドイツ～ドイツ民主共和国～男子ナショナル(世界選手権2位)の招待について、次のようにその日程を確定した。モントリオール強化策として新編成の全日本が4試合する。

東ドイツ、全日本ともその陣容の発表は7月中旬の予定。

第4戦(9月6日・金・神戸)は兵庫協会創立25周年事業として行われるもの。唯一の単独チーム・大同製鋼(4日、名古屋)は、現全日本チャンピオンチームとしての推せんによる。

〃〃〃〃〃〃〃

東京大会の入場券前売り

東ドイツ招待の第1、2戦(いずれも対全日本)を主管する東京協会は、その入場券前売りを7月10日ごろから始める予定だが、その申しこみ先と入場料金などを次のように決め発表した。

◇第1戦(8月31日・土・午後3時30分＝第21回NHK杯)及び第2戦(9月1日・日・午後2時)入場料。一般ならびに学生、1人千円(前売り八百円)、中学生ならびに高校生、1人五百円(前売り四百円)

◇前売り申しこみ・発売先　東京都品川区東五反田2の2の7・大崎電気工業気付、東京都ハンドボール協会

なお、第1・2戦2日間通用券を発売する計画はいまのところない。

東ドイツ招待日程(予定)

- 8月29又は30日来日(羽田)
- 8月31日(土)対全日本(東京体育館)
- 9月1日(日)対全日本(東京体育館)
- 9月4日(水)対大同製鋼(愛知県体育館)
- 9月6日(金)対全兵庫(神戸市中央体育館)
- 9月7日(土)対全日本(京都府体育館)
- 9月8日(日)対全日本(大阪市中央体育館)
- 9月10日(火)　帰国(羽田)

定員突破は確定的
教員養成大学研修会

文部省の後援を得て日本協会が初めて開く「全国教員養成大学ハンドボール研修会」(8月29～9月1日・東京オリンピック記念青少年総合センター)は、6月10日に仮申しこみを〆切ったが、琉球大(沖縄)をはじめ全国各地から122名の参加申しこみが寄せられ、6月末の本〆切りまでには、定員(100名)を満たすことが確定的となった。

申しこみは7月31日まで
初の全国高専大会

今年度から開催が本決りとなった全国高専ハンドボール大会は、新潟協会によって、その準備が進められているが、このほど、開催の概要が次のように決まり、近く関係者に大会要項が発送される。

▽大会期日　8月27、28日の2日間

▽会場　新潟県柏崎市(柏崎高、柏崎工高グランド)

▽参加料　一チーム(校)四千円

▽参加申しこみ〆切日　7月31日(申しこみ先は新潟県柏崎市東本町1—6—8佐渡五気付・新潟ハンドボール協会)

「48年度決算」の監査

日本協会はこのほど「昭和48年度決算」を行い、日本体協に委嘱された田沼次郎、大河内誠一両公認会計士の監査をうけた。また、日本協会・山田稔監事による監査も行われた。

同決算額は四六、四〇五、九四八円で、当期剰余金は別途つみ立ての「モントリオール・オリンピック基金」一、七八五、四〇〇円(47、48年度合計額)を含めて一九六九、六四〇円。なお、世界選手権遠征費四、一五〇、〇〇〇円が日本体協から交付されぬまま「未収金」となって計上されている(48年度決算は全国評議員会承認後、本誌にも掲載します)

お知らせ

昭和49年度日本協会新登録にともない、7月より本誌を各チームに発送しますが、購読票の記入不備が目立っています。

特に高校、一般Cで不明瞭なケースが多く7月号については行き違いが生じそうです

次のような場合、至急、日本協会あてお知らせ下さい。

①購読手続きをしながら7月20日を過ぎても届かぬ場合
②宛先の違う場合
③申込まぬのに7月号が届けられた場合そのままにしておくと購読料の請求をうけます

日本ハンドボール協会
事務局



日本勢、男女とも勝ちこせず　梨花女3勝

成均館は4勝　日韓学生親善試合

第8回（女子第3回）日韓学生親善試合は、韓国からナンバー・ワンチーム成均館大（男）と梨花女大が2度目の来日、6月2日から9日まで全国4都市で各5試合が行われ、成均館は4勝1敗、梨花女は3勝2敗と勝ちこした。

成均館は、韓国きっての強豪といわれるにふさわしく、速攻、空間パス、サイドシュートと多彩なオフェンスを示し、日本勢はわずかに関東学生が一矢を報いたのみ。梨花女はハンドボール専問選手が8人といろ持ち駒不足に苦しみながら善戦、男女とも「日本優勢」から「均衡」へまた一歩近づかれた印象を深めた。これで、通算成績は、男子が42戦25勝4分13敗（うち7人制は36戦19勝4分13敗）、女子が14戦7勝1分6敗（いずれも7人制）で日本のリードとなっている。

朴淳哲団長ら一行31名（役員7、選手24）は6月10日空路帰国した。

関東学生が一矢むくう

男子

第1戦・福岡学生選抜との試合は6月2日午後3時30分から新装の福岡・九州産業大学体育館で行われた。審判＝金栄佑（韓国）、日野博

成均館（韓国）28（11—4、17—11）15 福岡学生選抜

〔試合経過〕成均館は巧者・金成憲が定評どおりの動きを見せたほか、崔、李のポストにおける鋭い動きなどで8分5—0と先制した。

福岡は10分満重のゴールで調子を出し、12分柳井、15分金谷で3—5、17分4—6と反撃に期待をもたせたが、ディフェンスに粘りがなく、18分から再び成均館の攻撃をうけて連続5失点、27分4—11と開かれた。

後半になると、成均館はあまりゆさぶりをみせず車、張のシュート力を活かした中央攻撃で加点、19分20—8と勝負を決めた。

福岡は20分をすぎてから中馬、松井で懸命に追いあげたが大勢をくつがえすまでには至らなかった。

成均館は、サイドからの攻撃がすばらしく、天性のジャンプ力を活かして、福岡ゴールを割っていたのが目についた。

得	【成均】		【福岡学生選抜】	得
0	安仁鎬	GK	小畠（九州産大）	0
0	姜正炫	GK	鈴木（福 岡 大）	0
5	崔掬鎮	FP	大塚（九州産大）	0
3	張星淳	FP	久保（九州産大）	2
3	車聖福	FP	松井（福岡教大）	2
9	金成憲	FP	長崎（西南学院）	1
3	李鍾七	FP	中馬（九州産大）	4
0	金虎吉	FP	磯口（九州産大）	1
1	姜和鏞	FP	柳井（九州産大）	1
0	金鍾声	FP	金谷（九州産大）	3
0	金宜鎮	FP	満重（九州産大）	1
4	高正奎	FP	高久（福岡教大）	0
28	（0）	7MT	（0）	15

▽その他の出場者【福】藤野、内藤（ともに西南学院）、青柳（九州産大）＝いずれもFP、得0

関西、終盤にダメージ

第2戦・関西学生選抜との試合は4日午後6時2分から大阪市中央体育館で行われた。審判＝望月仲三郎、井上裕人、観衆＝約一千

成均館 12（5—4、7—5）9 関西学生選抜

〔試合経過〕成均館が開始5分間で2点をあげたのに対し、関西はピックアップチームの弱点をのぞかせてリズムが合わず20分までまったく得点をあげられなかった。

成均館の攻撃も5分以降はタイミングが悪く16分に1点を追加しただけで、もしこの間にもう3〜4点加えていれば、勝負の大勢はついてしまっただろう。

20分をすぎてから関西はようやくチャンスを活かすようになり山内、丸井、宇尾野で同点、26分山内のゴールで4—3と逆転した。

しかし、成均館は28分金成憲、ハーフタイム直前7MTで再び先行、一息ついた。

後半1分成均館が加点したが、関西も6分大原、7分大庭でタイにこぎつけ、このあたりからにわかに試合は活気づいた。

得	【成均】		【関西学生選抜】	得
0	安	GK	藤井（大阪体大）	0
0	姜（正）	GK	日比（京都産大）	0
1	崔	FP	山内（大阪体大）	2
0	張	FP	宇尾野（大阪体大）	1
6	車	FP	大原（京都産大）	1
1	金（成）	FP	新家谷（大 阪 大）	1
3	李	FP	根本（大阪体大）	1
0	金（虎）	FP	大庭（同 志 社）	0
0	姜（和）	FP	太田（大阪経大）	0
0	金（鍾）	FP	岡野（桃山学院）	0
0	金（宜）	FP	丸井（大阪体大）	3
1	高	FP	西沢（京都産大）	0
12	（3）	7MT	（0）	9

▽その他の出場者【関】藤田、能波（ともに大阪体大）＝FP、得0

〔成均館大〕

	氏名	身長	得点
監督	崔任煥		
コーチ	姜仁燮		
K	姜正炫	173cm	・
	安仁鎬	180	・
F	金虎吉	173	・
	李鍾七	175	22点
	姜和鏞	182	2
	崔掬鎮	170	12
	金成憲	170	29
	車聖福	182	26
	金鍾声	177	・
	張星淳	184	6
	高正奎	172	14
	金宜鎮	177	・

20分まではともに決定的な勝機がなく8－8とゆずらず終盤にすべてがかかったが、成均館はやや動きの鈍った関西ディフェンスを突いて3点を連取、関西も25分丸井が返して9－11としたが、成均館は27分車がダメ押しの1点を加え振り切った。前半なかばからは互いに持ち味を出しあいなかなか面白い試合であった。

成均館、スピード衰えず

第3戦・東海学生選抜との試合は6日午後7時6分から名古屋・愛知県体育館で行われた。審判＝金栄佑、稲石三二、観衆＝約二千

成均館 22（10－9, 12－6）15 東海学生選抜

得	【成均】			【東海学生選抜】	得
0	姜(正)	GK	GK	杉浦(名城)	0
0	安	GK	GK	千田(中京)	0
0	金(虎)	FP	FP	佐藤(名城)	3
7	金(成)	FP	FP	山本(名城)	6
8	車	FP	FP	布垣(中京)	1
0	張	FP	FP	山内(愛知教大)	0
1	崔	FP	FP	三宅(中京)	1
0	金(宜)	FP	FP	岸見(中京)	0
0	高	FP	FP	村上(中京)	1
6	李	FP	FP	伊藤(南山)	0
0	姜(和)	FP	FP	佐藤(中京)	1
0	金(鍾)	FP	FP	田中(名城)	2
22	(4) 7MT (3)				14

▽その他の出場者【東】杉山、高橋（ともに名城）、妻鹿(中京)、太田(南山)、石黒（岐阜大）＝いずれもFP、得0、加藤(南山)＝GK

○……試合の焦点は、東海のエース佐藤と山本の強肩が成均館大を打ち破れるか、成均館大の速い攻撃をどう守るかであった。

ゲームは2分佐藤が左45度10mからの甘さを衝いて先取点をあげ続いて布垣からのインターセプトボールが佐藤に通って2点を先行して第一の山場をつくった。しかし、成均館大は3・3フォーメーションから、スピードのあるロール攻撃の破壊力に自信を持っていたのか、冷静な攻撃で満を持し、5分シュートカットをフォローした李がドリブルからゲットし1－2と反撃態勢を整のえた。東海はその直後山本ゲットして2点差としたが、李がゴール正面のワンクロスからミドルシュートを決めてからは、車が7mとシュートカットボールをものにして逆転した。

○……しかし、東海も山本のミドルとインターセプトからの連続ゲットでシーソーゲームを展開し二千の観衆を沸かせた。その後18分8－5とリードを許した東海は、24分インターセプトからドリブルで持ち込んだ布垣が、ポストの佐藤に見事なパスを通して8－8と追いあげ、ゲームを盛りあげたがスピードで優った成均館大が10－9で前半をリードした。

○……後半は東海が田中の巧シュートで10－10としてゲームを振り出しに戻したが、持久力、瞬発力スピードに優る成均館大は、前半やや不振に見えたエースの金成憲の開眼により、43分には17－11と主導権を握った。その間に見せた金(成)と車両エースの巧技が実に印象的であり、観衆を魅了させるに十分であった。後半足の止った成均館大の差が、22－15の結果となったといえよう。ロール攻撃、ワンクロスにポストを絡ませスピードで押し切った成均館大のプレーが一際光った一戦であった。しかし、成均館大にも防禦の甘さがあり、東海の攻撃に今一歩のスピードと工夫があればという反省があったように思う。最後に、金レフェリーの真摯な動きに敬意を表したい。（宇津野年一・東海学連審判長）

〃〃〃〃〃〃〃〃

お年寄り招待の新企画

□……女子の試合が終ると、そろいのゆかた姿が現れて華やかに「花笠音頭」。

遠来の韓国チームに日本情緒を味ってもらおうという狙いのほか東海学連は、この大会に「お年寄り招待」のキャッチフレーズを打ち出しており、その人たちへのサービスを兼ねていたもの。

□……普及対象といえば、スポーツ少年団やハンドボール教室の生徒が通り相場だが、壮・老年層にハンドボールを理解してもらおうとしたこの企画、わるくない。

男子のハーフタイムには、中京大の女子新体操部員による演技を行いファンのごきげんをとりむすぶなど、この夜の愛知県体育館は色彩り豊かだった。

関東、個人技でかわす

第4戦・関東学生選抜との試合は第4回西敬郎杯争奪定期戦として8日午後4時48分から東京体育

金成憲選手訪問

□……小柄"あどけない顔。だがコートに立てば、彼ほど激しいプレーをする選手は居ない。

初来日した時は東亜高の3年生、早いもので大学生活ももう3年目。

どんな選手になったろう、と日本の関係者は楽しみにその登場を待っていた。

□……大阪でやや体調を崩したがやはりすごい、巧い。

秀れたジャンプ力を活かして空間に身を躍らせ、宙で止まるかのようにしてそのままシュート……。このプレー見たさに会場へ来たファンも多い。そのことを話したら、ちょっと首をかしげててれた。

『オリンピック予選（46年11月東京）で日本ナショナルのディフェンスが強いのに驚いた。

その壁を破る技術を身につけたいと思っているのです』

□……今回の遠征でも、日本学生に守りの強さを感じたし、攻撃力も個人技がまだまだ日本の方が秀れている、と思ったそうだ。

『日韓学生には、選手層の差がありますが、ただGKだけは全般に韓国のレベルが上だと思います』と観察のこまかいところを述べた。

将来は体育教師になりたい、というが研究熱心も定評があるところ。オリンピック予選で野田（大同製鋼）のプレーを食い入るように見ていた姿を想い出す。

□……『野田選手の居たことが僕の大きな励みになった。あの人のプレーは一つ一つ立派でした』。

「今や野田よりすごい」という声が今回の来日で高まっている。『モントリオール、世界選手権。大いに魅力があります。頑張るつもりです』。

□……3年前、韓国ナショナルの"高校トリオ"として名をあげた金、車聖福、姜正炫(GK)は、着実にその力を伸ばしている。

なかでも金成憲は"韓国の星"から"アジアの星"へと成長しつつあることをはっきり示した。（S）

館で行われた。審判＝金栄佑、安藤純光、観衆＝約二千二百

関東学生選抜 21（11—9 10—8）17 成均館

【関東学生選抜】	得		【成均】	得
柴田（法政）	0	GK	姜（正）	0
柴田（中央）	0	GK	安	0
脇若（早稲田）	1	FP	金（虎）	0
松本（中央）	5	FP	車	5
喜井（日体）	0	FP	金（成）	1
橋本（日体）	3	FP	李	3
中山（日体）	3	FP	張	0
蒲生（中央）	5	FP	高	5
村田（法政）	3	FP	金（鍾）	0
大熊（中央）	0	FP	姜（和）	0
山田（早稲田）	0	FP	崔	3
菅野（日体）	1	FP	金（宜）	0
	21	（1） 7MT （4）		17

○…西日本シリーズで全勝の成均館は、この試合も自信にあふれ韓国特有の粘りとパワーで関東とせりあった。

開始直後、関東は橋本のパスカットからの速攻が決まり、幸先のよいスタート、そのあと7分までに速攻で脇若、村田、橋本らがゴール、5—0とリードした。

しかし、成均館も粘り、関東が蒲生の負傷退場でコンビネーションを崩すスキをつき、7MT、崔のポストシュートなどで得点、18分3—5と追いこんだ。

○…関東は蒲生の退場がひびき10分間近く無得点、ようやく19分中山のゴールで調子をとりもどし村田、松本とたたみかけ、苦しい戦況を脱け出たとみえた。

ところが、成均館は持ち前の斗志で27分から反撃、高の連続得点と李のゴールで8—10、ゲームの興味を後半へつないだ。

○…後半の立ちあがりは一進一退、わずかづつ成均館が押して、15分ついに15—15と振り出しに戻った。

離してもすぐ追いこんでくる相手に関東は〝選抜〟のもろさをあらわし、16分金成憲に速攻を決められて15—16と逆転を許してしまった。

ここで成均館が波にのれば関東も危かったのだが、よくもちこたえ、せりあいから勝負は残り5分にかけられた。

成均館大各選手は秀れたバネを活かしたプレーで日本勢を苦しめた（対関東学生，崔の攻撃，撮影・山田真市）

○…27分17—17から7MT（蒲生）で先行した関東は、にわかに元気づき28分菅野、さらに速攻で蒲生、松本がダメを押し成均館を突きはなした。

関東は、練習不足からコンビネーションがもう一つ整わず苦戦を強いられたが、村田、蒲生の両全日本選手を中心とした個人技でカバー、成均館の連勝を食いとめることができた。

GK柴田（法大）の活躍も見逃せぬ勝因である。

○…成均館は、評判の車、金（成）を中心によくまとまっており日本の学生も単独となると互角に戦えるチームは少いのではないかと思われた。

特に、日本チームが最近失ないかけているゲームへの粘りと斗志の旺盛さは見習うべきものがあった。また、ボールを持ってのスピードや、常にゴールを狙う姿勢は日本選手よりも秀れているように感じた（一宮昌平・関東学生コーチ）

元気ない日体、思わぬ大敗

第5戦（最終戦）・日体大との試合は9日午後2時45分から東京深沢の日体大第一体育館で行われた。審判＝金栄佑、佐野和夫、観衆＝約四百

成均館 33（15—9 18—7）16 日体

【日体】	得		【成均】	得
奥川	0	GK	姜（正）	0
斎藤将	0	GK	安	0
喜井	6	FP	車	4
橋本	4	FP	金（虎）	0
中山	2	FP	金（成）	11
菅野	1	FP	李	8
斎藤幸	2	FP	崔	4
林	0	FP	張	1
竹本	0	FP	金（鍾）	0
坂本	0	FP	高	4
後川	1	FP	姜（和）	1
大房	0	FP	金（宜）	0
	16	（1） 7MT （2）		33

▽その他の出場者【日】本根、庄司、斎藤英、北井＝いずれもFP、得0

○…両者の単独対戦はこれが5戦目。13年前11人制時代の22—6（日体の勝ち）は別として、あとの4戦は18—19、13—12、15—14といずれも1点差の大激戦、この日も序盤は見応えのあるせりあいだった。

ところが前半12分6—5とリードした日体は、14分李に同点シュートを許してから、まったく動きが鈍くなり、パスミス、キャッチ

ミスを連発、そこを出足のよい成均館勢に拾われ、たてつづけに11点を奪われてしまった。

○……ソツのない試合運びを伝統とする日体にしては、めずらしいつまづきだったが、その虚を一気についた成均館のなだれこみをここは賞すべきだろう。

特に、速攻体型のとりかたの巧さと、エリア前、両サイドが勢いよくクロスしてシューターに対するマーカー（守備側）をまどわす呼吸のよさは個々の判断力、展開力の優秀さを示すものといえた。

○……日体は後半、反撃の気力さえも失い10分には10－23、せめてダブルスコアをまぬがれて欲しいと願う応援学生ののぞみも裏切ることになった。

成均館はやることなすことすべて当たった感じだが、やはり金成憲の妙技は圧巻、車は左射ちをなかばマスターしたようだし、李の速攻、GK姜の沈着なプレーも光った。

このほか目立ったのは、このチーム独得のディフェンス「スプリット2・4」。選手の間隔を広くとりサイド、中央部など全面カバーするシフトだ。

腰の強さとフットワークがよいので、少々パスを通されてもシュートに持ちこまれる直前でつぶしている。

終盤、喜井が12mあたりから強引に射ってゴールを決めていたが、この戦法をもう少し早目にとっていたらところまで差はつかなかったのではなかろうか。（杉山 茂・NHK運動部）

〃〃〃〃 13年前の恩返し

□……最終戦に大勝した成均館・崔任煥監督（45才）は「日本流に云えばこれが〃恩返し〃というものでしょう」と日体大関係者に握手を求めていた。

というのも、36年10月の第1回交流で日本代表として訪韓した日体大（当時は11人制）に成均館は手も足も出ず6－22で大敗。しかし、敗れたとはいえ日体のスピードにあふれた多彩な技術をまのあたりにして成均館は、正にこの時〃ハンドボール開眼〃したのである。

□……以来、日本学生界のレベルを目指して努力をつづけ、今や韓国最強。若手OBを加えた陣容は日本の実業団にも互角とまで云われるようになった。

そして今回、日体大のホームコートに乗りこんで、13年前、16点差で敗れた思い出を塗りかえるように17点もの差をつけて快勝したのだ。

□……現在、ベンチを預る姜仁燮コーチ（35才）は当時のFW、この日安藤純光氏（日本協会審判部長）と組んで審判をつとめた金栄佑氏（34才、韓国協会審判部主任）が、FBであったのもなにかの因縁だろう。

ちなみに、韓国に7人制を初めて紹介したのは、36年の遠征時、紅白に分かれ競技してみせた日体大である。

女子

梨花女、西日本で3連勝

第1戦・福岡学生選抜との試合は2日午後2時20分から九州産業大学体育館で行われた。審判＝野村良水、今村孝一

梨花女（韓国） 15（7－4／8－4）8 福岡学生選抜

（試合経過）ともにふだんの試合経験が浅いせいか動きになめらかさがなかった。

先行したのは梨花女。李、張のコンビが積極的に射って15分4－1とした。福岡も16分から追いあげ永見、谷川、田中らがゴール、19分4－4と粘った。

しかし、力（パワー）に優る梨花女は20分から再び攻勢に転じ、後半12分までに連続8点、12－4と大勢を決めた。

福岡はディフェンスに、韓国のたての攻撃を封じるだけの組織力がなく傷口を拡げた。

梨花女は前回来日時に比べプレーが多彩になっている。

得	【梨花】		【福岡学生選抜】	得
0	全恵子	GK	広田（福岡教大）	0
0	朴京子	GK	平木（北九州教養）	0
0	金順子	FP	古賀（福岡教大）	1
6	張恵玉	FP	谷川（福岡教大）	2
6	李純玩	FP	永見（福岡教大）	2
2	尹英旭	FP	末永（福岡教大）	0
0	徐香南	FP	山中（筑紫女短）	1
0	宋圭賢	FP	森本（筑紫女短）	1
0	梁演貞	FP	白石（筑紫女短）	1
0	林恵玉	FP	下川（福岡教大）	0
0	金延美	FP	永島（福岡教大）	0
1	金貞昊	FP	足達（福岡教大）	0
15（0）	7MT（0）			8

あと1点及ばず関西惜敗

第2戦・関西学生選抜との試合は4日午後5時から大阪市中央体育館で行われた。審判＝前田吉弘、丸岡一清

梨花女 11（5－4／6－6）10 関西学生選抜

得	【梨花】		【関西学生選抜】	得
0	全	GK	梅谷（大阪体大）	0
0	朴	GK	吉田（武庫川女）	0
0	金（順）	FP	高木（大阪体大）	1
4	張	FP	寺尾（武庫川女）	4
5	李	FP	辻（武庫川女）	2
2	尹	FP	井上（武庫川女）	3
0	金（貞）	FP	上田（大阪薬科大）	0
0	金（延）	FP	牧野（大阪教大）	0
0	徐	FP	奥野（大阪体大）	0
0	宋	FP	高市（大阪体大）	0
0	梁	FP	金森（大阪体大）	0
0	林	FP	三輪（武庫川女）	0
11（1）	7MT（2）			10

▽その他の出場者【関】赤尾、沢田（ともに武庫川女）＝いずれもFP、得0

（試合経過）梨花は尹のカットインと李のロングであっさり先制したが、関西も6分井上、7分辻で同点とした。

しかし、フットワークのよい梨花は、李の強肩で関西ディフェンスを誘っておいて張が切りこみ10分3－2、さらに12分李のシュート、15分張のポストとチャンスを活かし5－2と開いた。

関西はおよそ15分間無得点だったが、前半終了間ぎわ2点を返し、さらに後半開始直後の反撃が実り2分寺尾でタイ、3分井上で逆転した。ここでディフェンスが固まればよかったのだが、4分7MT、7分張にもぐりこまれてせっかくのリードをとり返され、10分寺尾で7－7としたものの、すぐに2点を奪われる拙さだった。

15分すぎ梨花女は2度の好機を活かし11－8、そのまま逃げこむかに見えたが、梨花女のディフェンスもけっしてよいデキではなく関西は21分辻、22分7MT（寺尾）で1点差に肉薄、場内をわかせた。

このピンチに梨花女は新人の金（貞）が巧リード、関西の執ような当りをかわして、辛くも逃げ切った。

梨花、後半一気に決める

第3戦・東海学生選抜との試合

は6日午後5時5分から愛知県体育館で行われた。審判＝鈴木四郎 浅野克彦

梨花女 11（9－1 / 2－2）3 東海学生選抜

【東海学生選抜】		得
GK	佐々木（中京）	0
GK	美濃島（中京女）	0
FP	藤井（中京）	0
FP	永井（岐阜大）	1
FP	浦崎（中京）	1
FP	倉地（中京女）	0
FP	鈴木（愛知教大）	1
FP	知多（中京）	0
FP	石川（中京）	0
FP	加納（中京女）	0
FP	中原（愛知教大）	0
FP	大森（岐阜大）	0
	7MT（0）	3

【梨花】		得
GK	全	0
GK	朴	0
FP	尹	1
FP	李	5
FP	張	2
FP	金（順）	0
FP	金（貞）	1
FP	金（延）	0
FP	徐	2
FP	林	0
FP	梁	0
FP	宋	0
	7MT（0）	11

▽その他の出場者【東】杉浦、中根（ともに中京）、久屋（中京女大）＝いずれもFP、得0、

○……中京大中心の東海選抜に対して、日本のファンに顔なじみのエース李を中心に優れた体格の梨花女子大の戦い振りに興味が持たれた。

速攻を得意とする東海は、李をマンツーマンでマークし、守りからのチャンスをねらう作戦が立てられた。前半はこの作戦が功を奏し、約10分間は無得点でゲームは進展した。

しかし、その間2・4フォーメーションを組んだ梨花女子大は、張のフェイントと突進力、尹のロングシュートなど、かなりの威力を感じさせた。

○……一方の東海は、永井のロングシュートとフェイント、藤井のフェイントに突破口を求める結果となったが、肝心のフォローがなく単発で効果なく、今一つ物足りなさを感じた。

先取点は11分梨花・張が右45度を破りゲット、続いて18分金のロングシュートが決まって2－0と離した。追う立場に回った東海は李をマークした作戦が反撃への糸口となって10分ゴール前の小さいパスワークからポストの浦崎が決めて1点、22分には相手のドリブルミスをものにした永井が、コート中央にいた鈴木とのランパスに成功し、永井がゲットして2－2のタイで前半を終了した。

○……後半は、フリースロー防禦に甘さの見られた東海は、李に立て続けに直接フリースローを決められリードを許した。動きのよくなった梨花女子大は、スピードに乗り、東海の防禦の甘さを衝いて連続得点を重ね11－2と大きく引き離して勝利を不動とした。東海はわずかに46分鈴木が右サイド深い位置で飛び込んで一矢を報いたが時遅く11－3で大敗した。

このゲーム、東海前半の善戦が称えられたとしても、基礎技術の不足、個人技の差は明瞭であり、基礎体力の差も含めて、東海選抜チームの今後に多くの課題を残した一戦であった。（宇津野）

梨花女大のエース・李の豪快な攻撃力はこのシリーズのハイライトだった（対関東学生、撮影・山田真市）

多彩な攻撃見せた関東

第4戦・関東学生選抜との試合は8日午後3時28分から東京体育館で行われた。審判＝岡前義春、大塚文雄

関東学生選抜 16（12－4 / 4－6）10 梨花女

【梨花】		得
GK	全	0
GK	朴	0
FP	徐	0
FP	李	7
FP	尹	2
FP	張	1
FP	金（順）	0
FP	金（延）	0
FP	林	0
FP	宋	0
FP	梁	0
FP	金（貞）	0
	7MT（1）	10

【関東学生選抜】		得
GK	鍋田（東女体）	0
GK	田草川（日女体）	0
FP	山田（東学大）	4
FP	西田（東女体）	2
FP	藤山（日体）	2
FP	松本（日体）	3
FP	橋（東女体）	3
FP	坂本（日体）	2
FP	菅井（日体）	0
FP	寺尾（日体）	0
FP	赤岸（東女体）	0
FP	永沢（東学大）	0
		16（0）

○……関東の快勝だった。

関東は梨花女に比べ、スピードスキルにおいて上廻り、山田、西田が相手の2・4ディフェンスのトップをゆさぶり、坂本、藤山につなぎ、ミドル、ロングあるいはポストにと多彩な攻撃をくりひろ

げ、速攻も確実にポイントするいう申し分ない試合運びであったと。
○……梨花女で目立ったのは、やはり李純玩だ。実業団(白花醸造=現在廃部)で来日の頃から、その強シュートをうたわれ、去年訪韓した際も苦しめられたが、この試合でも、その左腕に7点を奪われた。去年より身体が一まわり大きくなり、動きはむしろ落ちたがシュートの破壊力は増している。
このほか、張恵玉のフェイントカットインプレーが光った。(藤原侑・関東選抜監督)

日体、前半で勝負決める

第5戦(最終戦)・日体大との試合は9日午後1時から日体大第一体育館で行われた。審判=安藤純光、中沢重夫

日体 15 (5—6, 10—5) 11 梨花女

【梨花】		得
GK	全	0
GK	朴	0
FP	金(順)	0
FP	李	5
FP	尹	2
FP	徐	1
FP	林	0
FP	張	2
FP	金(延)	0
FP	梁	0
FP	宋	1
FP	金(貞)	0
		11

【日体】		得
GK	鈴木	0
GK	長谷川	0
FP	松本	5
FP	坂本	2
FP	菅井	0
FP	小田	4
FP	林	1
FP	藤山	0
FP	岩本	2
FP	寺尾	1
FP	坂上	0
FP	出田	0
		15

15(1)7MT(3)11

▽その他の出場者【日】木元、門田=以上FP、得0、小林=GK
○……攻撃パターンが多彩な日体の完勝だった。
立ちあがり3分30秒、松本がポストを決めて固さがほぐれた日体は、帰陣の遅い梨花女守備陣をつき速攻、6分20秒4—0とした。
梨花は、日体ディフェンスの当りにとまどってほとんどチャンスがなく、7分45秒、8分FTから李が強引に射ちこみ2点差としたものの追加点がない。10分以降、日体が再び勢いづき坂本、小田、岩本、林らが中央、45度、サイドから射ち分けてゴール、5点差をつけた。
○……後半も日体のペース。2分15—5と大勢を決したが、皮肉なことに梨花は、マークされたエース李をベンチに退けたとたんボールが廻りはじめ、徐、張、尹らで得点、味のなくなりかけた試合をわずかながら盛りあげた。
梨花は、部員がわずか8名で、今回の遠征には「バスケットボールや水泳選手などを補強」(趙監督の話)してきた。
しかも、GKが居ないため、得点力低下を承知で高校時代に経験のある全をコンバート。
手うすなところへ前日から新進・金貞昊(3月、ジュニアで来日)が負傷で欠けてしまいこの試合は勝つ目がまったくなかったといってよい。(杉山)

〃〃〃〃〃〃〃

めずらしい女性監督

□……梨花女大を率いていた趙成煥(46才)さんは女性監督。来日した外国チームでは初めてである。
もっとも実戦指揮は金正秀コーチに預け、いわば部長の立ち場だが、梨花女大の体育教官歴だけでもすでに19年、女子スポーツには一家言ある人だ。
□……大学では「体育史」とフォークダンスを担当、ハンドボール部の面倒をみはじめたのは今年の春から。
「軟式庭球部の監督をしていた時も日本に遠征させました。私は勝運があるのよ」
お嬢さん学校・梨花のキャンパスにふさわしい明るい先生だが「この頃の学生は、すぐに陽にやけるからとか、勉強が大変だからとか、疲れるとかいって練習に身をいれない」と残念がる。
□……梨花女は1週のうち2時間程度の練習を3日間やるだけ、それも大会が迫っている時に限る、という。
「スポーツと学業は両立できるハズ。若い時、なにか一つに打ちこまなければダメですわ。日本の女子選手はよく訓れんされ技術、マナーともすばらしいものがありました」。流ちょうな日本語で話す趙さん。彼女の来日は、日韓の女子学生界をいっそう〃身近かなもの〃にさせたようだ。

〔梨花女大〕

監督	趙 成煥		
コーチ	金 正秀		
GK	全 恵子	171cm	・
	朴 京子	167	・
F	徐 香南	158	1点
	金 延美	167	・
	宋 圭賢	164	1
	林 恵玉	164	・
	金 順子	167	・
	尹 英旭	165	9
	李 純玩	171	28
	梁 演貞	164	・
	金 貞昊	165	2
	張 恵玉	165	15

李純玩選手訪問

□……ひときわ大きい。ヨーロッパ選手を見ているようだ。
3年前、白花醸造(ソウル、現在廃部)の一員で来日、その時から非凡な攻撃力が話題になった。
実業団相手に揮った左腕を、去年から学生界で活かしている今回も総得点の5割近い28点をあげた。「判っていながらゴールされる」と日本側はいうが、そこが〃貫録〃。
□……なかなかのファイター。再三の往来で、日本女子界に対する〃目〃も鋭い。
『韓国の女子学生でハンドボールをする人はまだまだ少いのです。梨花も人数がもう少し揃えば、日本に負けるとは思わない』ときっぱり。
さらに『去年より日本学生(女)のレベルは落ちている』とつづけた。
□……学生と実業団との比較もズバリ『問題にならない』という。
大洋デパート(熊本、現在廃部)の強さはなかでも彼女の胸に焼きついている。
大洋火災の話をしたら顔をくもらせ、立石電機(熊本)での再出発を知って『よかったわ』と初めて笑顔をみせた。
□……すでに8年のキャリア。印象に残っているのは母国での活動よりも『白花時代、熊本での全日本実業団選手権(46年)に特別参加して前慶淑さんとともに優秀選手に選ばれたこと。その翌年、室蘭での同選手権で腕の故障に苦しみながら戦いぬいたこと』。
□……いちより太ったのではと通訳の趙さん(監督)に話している途中で意味が判りニヤニヤ『日本に来ると大きくなっちゃうの』。
そのためか、以前みせた切れのよいフットワークがカゲをひそめた、との声も日本側関係者の間にはある。
□……まだ2年生だが『大学を卒業したら体育教師になってハンドボールを教えたい』。
たくさんの後進を育て、質量ともに日本をしのぐ力を示すのが彼女の夢なのだろう。
この心意気、彼女のプレーそのままに豪快である。(S)

女子社会人は4戦全勝

日韓交流

第4回日韓女子社会人交流は、日本実業団選抜軍（富永劭団長ら役員3、選手14）が遠征して、5月20日から26日まで釜山、ソウルの両市で4試合（ほかに非公式戦1）を行った。

ベテランと若手を巧くミックスさせた日本実業団選抜は、安定した試合ぶりで、高校OG主体の韓国社会人チームを制し4連勝、通算成績は18戦12勝1分5敗と日本側が大きくリード。

韓国側では、将来性に富んだ高校現役選手の動きが目立ち、今後の女子交流は楽観を許せない。

富永団長ら一行は27日元気に帰国した。

前半のリード守る

第1戦・釜山選抜との試合は5月20日釜山市の九徳体育館（32m×29m）で行われた。審判＝李善行、鄭政雄。観衆約三千

日本実業団選抜 10（6－2、4－2）4 釜山選抜

得	【釜山】		【日本】	得
0	崔承姫	GK	久保	0
0	金玉先	GK	西村	0
0	林仁淑	FP	岩井	0
0	張美貞	FP	市川	0
0	権必欽	FP	植原	2
0	李哲順	FP	篠田	3
2	金貞玉	FP	原川	1
1	李京淑	FP	宮崎	2
1	玄真玉	FP	横山	0
0	朴英淑	FP	阿部	1
0	姜先粉	FP	鈴井	0
0	見英珠	FP	遠藤	1
4	（0）	7MT	（2）	10

▽その他の出場者【釜】朴錦淑、張泉姝、【日】桜庭＝いずれもFP、得0。

後記　市川千晴

ソウルから5時間あまりバスに揺られ釜山に到着、あいにくの雨のため、途中車窓から景色をほとんど見られなかったのは残念でした。

釜山は首都ソウルのような騒がしさはなく、全体の感じが日本的で、住みよさそうな所です。

会場の体育館は、内部がうす暗く円形で、しかも超満員に近い観衆が集まり、日本では見聞できない応援に驚ろかされました。

しかも第一戦とあって皆あがるのではないか、と心配でした。

前半は、コートが狭いため得意とする速攻や〝走り〟に感覚がくるい、パスが通らず平凡なミスが多くチャンスの割に得点をあげることができずに終りました。

後半いきなり2点を返されとせまられたのですが、ディフェンスの立ち直りでそのあと追加点を終了まで与えずに封じこみました。

しかし、オフェンスはパスワークがスムーズになりながらもシュートに確実さが欠け、勝つには勝ったものの自分のペースで試合を運ぶことができませんでした。

反省点として、ルーズボールの処理が悪く、ほとんど相手に取られてしまったことがあげられ、また韓国は2・4ディフェンスが多いと聞きますので、クロスを使ったシュートをすべきだと思います（FP・東京重機工業）



ソウルでの第3戦，日本・篠田の鋭い中央攻撃（富永劭氏提供）

驚ろかされた熱狂の応援

第2戦・全聖貞との試合は、22日ソウル運動場で行われた。審判＝金昌勲、金甲経、観衆＝約二千五百

日本実業団選抜 16（10－7、6－4）11 全聖貞

得	【聖貞】		【日本】	得
0	金賢淑	GK	久保	0
0	孫美子	GK	西村	0
1	金玉子	FP	岩井	0
5	姜京貞	FP	市川	0
3	盧千順	FP	植原	3
2	金鍾淑	FP	篠田	2
0	徐今淑	FP	原川	2
0	金竹慶	FP	宮崎	2
0	李蘭子	FP	阿部	3
0	崔美淑	FP	桜庭	2
0	鄭鎮宇	FP	横山	2
0	趙賢卒	FP	遠藤	0
11	（1）	7MT	（2）	16

後記　原川美保

釜山での熱狂的な観衆を思いおこし、今回は圧倒されることなく頑張らねば……。

それに屋外で正規の広さ（コート）であるし、第1戦では出せなかった速攻をと思い、試合に臨んだわけですが、一歩、コートに足を踏み入れ驚いたのは、テニス優先の球技場とあって、サイドラインとスタンドのコンクリート壁と

訪韓女子選手団

▽団　長　富永　劭（全日本実連理事）
▽監　督　鈴木　義男（田村紡監督）
▽コーチ　福本　弘（大崎電気監督）

▽GK

氏名	所属	身長	得点
久保　徳子	田村紡	161cm	・
西村富美子	大崎電気	166	・

▽FP

氏名	所属	身長	得点
阿部　照子	日本ビクター	165	⑤
蓮見　彰子	日本ビクター	163	・
鈴井あけみ	日立栃木	160	・
桜庭　郁子	日立栃木	155	③
原川　美保	ブラザー工業	160	④
宮崎　桂子	ブラザー工業	164	⑥
植原　千鶴	立石電機	153	⑪
篠田　亨子	立石電機	164	⑥
横山　明子	田村紡	160	⑨
市川　千晴	東京重機	158	③
岩井　悦子	大崎電気	156	③
遠藤　昌子	東北ムネカタ	150	①

・○内数字は遠征総得点（公式4戦通算）

遠征より帰りて……　団長　富永　劭

わずか11日間の遠征でしたが大韓協会、釜山市協会関係者はもちろん、釜山では、暴風雨後、公務多忙にもかかわらず市長が会場にみえ、選手一人々々と握手して歓迎、またソウルの池昌竜医師は、出発前の合宿でなおり切れなかった日本選手の口の中の抜糸を夜間、しかも無報酬でしてくれ、まったく知らないかたからお祝いにと全選手の部屋にコーヒーを届けてくれるなど、毎日のように我々は韓国の人々の暖かいもてなし、善意につつまれていた。

実際に試合をはじめるにあたっては、韓国審判部会の申し合せ(判定解釈)などの特徴を調整、選手にはどのような判定をうけても従い、次の対処を早くするよう指示した。

7Mスローにおける倒れこみがすべてオーバーステップに解釈されるなど、若干のとまどいはあったが、韓国レフェリーの判定は熱狂的な観衆の応援やヤジにも左右されることなく公正で、全審判員とも自身の信念にもとづいたジャッジングを見せていたのは立派であった。

多くの思い出のなかで、とりわけ印象深いのは5月24日鳳永女子商業中学、高校を訪問したことである。これははじめ日程になかったのだが、珠算とタイプライターの授業参観や、中学生の可愛らしいマスゲーム高校生の規律正しい軍事教練のパレードなども見せてもらった

日本の選手たちは「教練」などよく知らないが、国旗に対する礼を失することのないように心がけた。

昼食は家庭科生徒が心をこめてつくった給食をともに食べ、我々は午後からお礼の意味を含めて、同校現役と小雨の中で練習試合をまじえた。

ところで、今回の反省として世界選手権、オリンピックに備え、多くの選手に海外遠征を経験させる必要を痛感した。

外国へ出たがためにアガってしまったり、食事が充分にとれず、コンディションを狂わしてしまう人が意外に多い。

肉をまったく食ない選手べもいたりして、日本食の調達にも苦労する。

ともあれ「楽しくケガのないように」をモットーにした今回の遠征は多くのかたの厚意によってつつがなく終えたことをご報告したい　(日本協会理事、全日本実連理事)

の間は約50㎝ほどの余裕しかなかったことで、何か圧迫されたような気持ちになりました。

このムードに立ちあがりを乱され、前半15分4−7とリードを許しましたが、落ちつくにつれ攻撃もまとまりだし21分同点のあと、残り3分に3点を加え、どうにか優位に立ちました。

後半は、10分までに4点をあげ14−10とリード、そのままのペースで押し切りましたが、シュートカットのあとの処理の拙さ、パスミスなど、我々はまだ本来の調子とは云えません。

なお、相手がダブルポストで「縦ブロック」を使用しての攻撃時ポストマンが終始45度のディフェンスマンに対し、ブロッキングの形を採った場合の判定と、国内であれば少々の当りに対してフリースローで処理されるのに比べ、警告をとられるケースが多く、審判の相異を痛感しました。

それにしても、日本では絶対にみられない観衆の熱狂と声援はなんともいえないものがあります。

特に、相手ペースに持ちこまれた時は、ベンチからの指示はおろか、となりの選手同士でさえも聞きとれない程でした。

帰国して、今回の遠征でなにがいちばん印象に残ったか、と問われた時、即「あの頭にビンビンと響く声援ですネ」と答えたものです。　(FP・プラザー工業)

朴妙順の攻撃力光る

第3戦・全鳳永との試合は、23日ソウル運動場で行われた。審判＝李鋒一、沈洞燮。観衆＝約三千三百。

日本実業団選抜　11 (7−3, 4−6) 9　全鳳永

【日本】	得		【鳳永】	得
久保	0	GK	方順実	0
西村	0	GK	鄭安玉	0
岩井	1	FP	朴妙順	6
阿部	1	FP	鄭貞淑	0
市川	1	FP	曺明順	1
植原	3	FP	金玉淑	2
篠田	1	FP	趙恭順	0
原川	1	FP	金貞淑	0
宮崎	2	FP	俞慶淑	0
鈴井	0	FP	孫永周	0
桜庭	1	FP	姜貞用	0
蓮見	0	FP	李英淑	0
11	(2)	7MT	(1)	9

▽その他の出場者【鳳】金敬愛、楊賢順、【日】遠藤、横山＝いずれもFP、得0

後記　岩井悦子

日本のスローオフで開始。三戦目で日本は初の先取点、サイドブロックのフォーメーションからあげたものである。

全鳳永は、白花醸造(実業団)廃部後、韓国では最強といわれるチームだけに、まとまりのある攻守で、日本が点をとればすぐとりもどす粘りをみせ13分まで4−3

そのあと日本は波にのり1分おきの加点で7−3、主導権を握った。

後半、全鳳永の長身・朴妙順(167㎝)にだいぶロングシュートを

射ちこまれた。日本もチャンスを活かしており、優勢と思っていたのだが、22分朴のシュートを決められ気がついてみると10－9と1点差に詰められており、一瞬どうなることかと思ったが、残り時間がほとんどないところで7MTを得て11－9、逃げこんだ。

今日は前後半とも速攻が多く、決して悪いデキではなかったが、朴一人に苦しめられてしまった感じだ。また、日本と韓国のディフェンスの違いからか、警告をとられるケースが多く、退場者も出るなど荒れ気味だった。（FP、大崎電気）

横山、連続7点の活躍

第4戦（最終戦）・ソウルジュニアとの試合は26日ソウル運動場で行われた。審判＝朴千祚、朴鍾甲。観衆＝約三千

日本実業団選抜 13（8－5、5－3）8 ソウルジュニア

得	【日本】		【ソJ】	(身長)	得
0	西村	GK	方順実	160cm	0
0	久保	GK	金賢淑	163	0
1	岩井	FP	朴妙順	167	4
2	市川	FP	金玉淑	157	2
3	植原	FP	姜京宜	162	0
0	篠田	FP	金京姫	155	2
0	原川	FP	鄭貞淑	159	0
0	宮崎	FP	金竹慶	159	0
7	横山	FP	韓玉珠	160	0
0	岡部	FP	金玉子	162	0
0	遠藤	FP	金敬愛	164	0
0	蓮見	FP	金淑子	160	0
13（3） 7MT（1）					8

後記　蓮見彰子

最終戦、相手はナショナルに準じるといわれるソウル・ジュニア。

闘志をもって試合場へ。この日もスタンドはほぼ満員。

立ちあがりはともに決め手がなく、相手は予想どおり鳳永のエース朴にボールを集めて攻めてきた。

日本は、7分速攻が決まってから調子がでて連続3点、15分までに1点を奪われたが、すぐ取り戻し主導権を握りつづけた。

後半、ソウルの速攻をうけて2点をとられタイとなったが、日本も3分のゴールで再びリード、しかし、韓国は5分すぎ巧みに日本のディフェンスを破ってゴール、我々は6分6－7と逆転されてしまった。

しかし、このあと横山選手（田村紡）がすばらしいプレーを連続させ同点、逆転、リード点と一人舞台、実に後半18分までの7点はすべて彼女があげたものだった。20分13－8と開いてソウルも反撃をあきらめた感じ。日本は全勝で日程を終えた。

最終戦、せりあったにしては観衆の声援が少なかったような気がした。それとも、我々がそのムードになれて気にならなくなったせいだろうか。（FP、日本ビクター）

全鳳永と公開試合

5月24日、日本実業団選抜軍は、鳳永女学校球技場で降りしきる雨の中「全鳳永」と公開試合（非公式戦）をまじえ勝った。

日本実業団選抜 10（3－2、7－5）7 全鳳永

韓国、出場の公算大 世界女子

日本協会は、来年12月キエフ（ソ連）で開かれる第6回世界女子選手権に、アジア地域から日本以外の国がエントリー〆切りは今秋9月1日するかどうかの情報集めを進めているが、韓国が出場を申しこむ公算はかなり強いようだ。

これは、日韓学生交流や、日韓女子社会人交流で韓国協会役員と接触した結果によるものである。

前回は、韓国と日本がエントリー。48年4月、日本でアジア地域予選（2試合）を行うことになっていたが、直前に韓国が棄権、日本がアジア代表となっている。

韓国以外の国の動きについては詳らかにされていない。なお、アジア予選の期限は来年3月16日まで。

韓国女子界をみて

コーチ　福本　弘

出発前の合宿で初顔合せの時、正直のところ私は一まつの不安を感じた。それは選手全般が小柄でロングヒッターが少なそうなこと所属チームにおけるディフェンスのポジションが片寄っていたことなどである。

しかし、練習が進むにつれ、完全とまではいかないが、この不安は少なくなっていった。それは、選手が我々の意向を早くのみこんでくれたことである。力（パワー）に頼らずあくまで速いプレーを貫く、というのが目標であったのだ。

これは、外国チームに対する日本の無二の戦法でもあろう。

さて、第1戦は、32m×29mと真四角に近い変則コートでの試合であったため、その中に12人のFPがただ入り乱れているといった感じで、とても速攻どころではなかった。

ソウルに移ってからの3試合は正規のコートだったが、サイドに余裕のない造りのため、のびのびとプレーがしにくかったようだ。

今回の遠征は、世界選手権予選などが予想される段階で、日韓女子の実力比較という〃テーマ〃があったのだが、以上のような条件のため、充分な印象はまとめにくい。

韓国選手は全般的に体躯が大きくなり、先天的なボールゲームセンスも手伝って、そのハンドリング、パスワーク、フェイント、手首の強さなどは、日本選手より優っているように思えた。

しかし、組織的戦術が乏しいため、プレーが単調で幅がない。

最終戦で顔を合せたジュニアにしても、かなり計画的な練習をつづけていた、と聞いたが、これといったプレーは見られなかった。

長身選手もポストにボールを通すだけ、白から射ってくる選手は特定な者に限られる。サイド攻撃が少ないのも韓国女子の特徴である男子では、日本を上廻るほどサイドからの攻撃が巧いのに、これは不思議だ。

中央部、45度に大型選手が多いだけに、サイドからのテクニックを身につければ日本も侮れなくなる。

ディフェンスでは、GKとFPとのコンビネーションが、どのチームもよくとれていたのが印象に残る。

遠征中、高校、中学の試合を観たが、日本のレベルを上廻っており、今回対戦したチームの中には攻守とも素質に恵れた高校現役が含まれていた。

近い将来、実業団が復活したり大学が積極的になればこれらの若手がいちだんとその技術を伸ばすであろうし、そうなると日本が、いつまでも優位をつづけられなくなりそうだ。（大崎電気女子監督）

★節電時代のエース★

大崎の
タイムスイッチ



上手なコンビネーションで，予想以上の節電が可能です。

日間・週間・年間の自動定時入切はもちろん，独自のソーラーダイヤルによる日没・日の出時刻の照度に合わせた入切の季節自動修正装置付です。

工場でもオフィスでも，電力・電灯を問わず，出勤・退出に合わせ，また季節による日照・日没に従って，全体または部分的にいちいち人手によらず自動的に入切ができます。

信頼度絶大・メンテナンスフリーの大崎のタイムスイッチをこの際，是非御利用下さい。

《特　長》

- 36時間の停電補償付
- 機種が豊富で用途別に選択が可能
- 消費電力が小さい（約２Ｗ）
- スイッチ容量が大（30A）
- １台で３回路まで制御が可能

大崎電氣工業株式會社

〒141 東京都品川区東五反田２丁目２－７
電話(03) ４４３－７１７１(大代表)

大同製鋼，三景と湧永薬品かわし優勝

4週間7都市を転戦してくりひろげた日本実業団（男子）リーグ（第15回全日本男子実業団選手権）は大同製鋼（愛知）が5戦4勝1敗で3連勝，高松宮杯を獲得，盛況裡に終幕した。

リーグ戦は5月25日から6月23日までの7日間，前年度のベストシックスが参加して行われ有力とみられた大同製鋼（愛知）が三景（東京）に敗れたことから，がぜん波乱ぶくみとなり，大同，湧永薬品(大阪)，三景が4勝1敗で三すくみ，得失点差に優った大同の優勝と決まった。なお，最優秀選手は松原光三（大同製鋼），得点王は30ゴールをあげた大江隆夫（三菱レ大竹）。

日本実業団リーグ（男子）終わる

本田技研、出足でつまづく

第1週　5月25、26日の2日間名古屋市体育館で4試合が行われた。

▽第1日

三景（東京）13（8—5　5—2）7 本田技研（鈴鹿・三重）

	【本田】	得	【三景】	得
GK	細野	0	佐藤	0
GK	牧原	0		
FP	勝田	0	佐々木	4
FP	佐藤	2	加藤	1
FP	田上	0	高梨	3
FP	新実	1	内藤	2
FP	柳	2	喜田	0
FP	長谷川	1	山村	1
FP	加藤	0	川島	2
FP	宮川	1		
FP	矢野	0		
FP	新野	0		

（審・鈴木・山田）

13（2）7MT（0）7

○…開幕第1戦とあって、両チームとも固さの見える立ちあがり最初のゴールは12分になってやっと三景が佐々木であげた。

本田もすぐに柳で追いついたものの新実が足の故障で存分に動けず攻撃の歯車が巧くかみあわない一方の三景は速攻機を着実に活かしてリード、GK佐藤の好守もあり、危気なく押し切った。

大同製鋼（愛知）28（16—6　12—4）10 三菱レイヨン大竹（広島）

	【三菱】	得	【大同】	得
GK	藤本	0	柳川兄	0
GK			倉谷	0
FP	田中	0	野田	2
FP	善本	0	加藤	0
FP	岡村	0	中井	3
FP	山川	3	松原	4
FP	岩本	1	花輪	7
FP	大江	5	柳川弟	9
FP	末広	0	石川	0
FP	沖重	1	北村	1
FP	重村	0	守田	2
FP	大林	0	中本	0

（審・浅野・稲石）

28（4）7MT（3）10

○…三菱レは大江のゴールで元気のよい飛び出しだったが、地力に優る大同は、20分までに8点を連取、あっさり試合の主導権を奪い、後半も柳川弟、花輪らの活躍で圧勝した。

▽第2日

三景 23（11—7　12—7）14 三菱レイヨン大竹

	【三菱】	得	【三景】	得
GK	藤本	0	佐藤	0
GK	松本	0		
FP	田中	0	佐々木	7
FP	善本	2	加藤	1
FP	岡村	0	高梨	2
FP	山川	2	内藤	3
FP	岩本	1	喜田	0
FP	大江	3	山村	1
FP	末広	0	川島	9
FP	沖重	1		
FP	重村	4		
FP	武田	1		

（審・浅野・奥村）

23（3）7MT（0）14

○…三菱レの食い下りで20分までは一進一退、わずかに三景が7—6と僅差のリード、しかし、総合力の差はこのあたりから次第にあらわれ、三景は佐々木、川島らが三菱の甘いディフェンスをついて連続ゴールを奪い、後半はじめで大勢が決まった。

大同製鋼 16（11—3　5—5）8 本田技研 鈴鹿

	【本田】	得	【大同】	得
GK	細野	0	柳川兄	0
GK	牧原	0	倉谷	0
FP	勝田	0	野田	2
FP	佐藤	2	藤中	0
FP	田上	3	加藤	0
FP	新実	1	中井	3
FP	柳	0	松原	4
FP	長谷川	1	花輪	5
FP	加藤	0	柳川弟	2
FP	宮川	1	北村	0
FP	矢野	0	守田	0
FP	新野	0	中本	0

（審・山田・鈴木）

16（2）7MT（1）8

○…本田の立ちあがりは好調で3分3—0とリード、期待どおりの激戦とみえた。

ところが、大同が前半なかばすぎからディフェンスを立ちなおらせると、本田の攻撃陣はチャンスを活かすことができなくなり前半はともかく5—5とタイでおさめたものの、後半は大同のペース、案外な凡戦に終った。

大同は、中井の巧技でリードを奪い、そのあとは攻守とも本来の調子が出た。

【個人得点5傑(第1週終了)】①花輪（大同）12②川島(三景)、柳川弟(大同)、佐々木（三景）各11⑥松原(大同)、大江（三菱）各8

湧永、大崎を押し切る

第2週　6月1日、大阪市中央体育館で2試合が行われた。

本田技研 鈴鹿 26（15—7　11—4）11 三菱レイヨン大竹

	【三菱】	得	【本田】	得
GK	藤本	0	細野	0
GK	松本	0	牧原	0
FP	田中	0	勝田	1
FP	大江	5	柳	1
FP	善本	0	長谷川	5
FP	重村	0	田上	10
FP	岩本	0	佐藤	7
FP	山川	2	高木	0
FP	岡村	3	加藤	0
FP	沖重	0	宮川	2
FP	武田	1	矢野	0
FP	末広	0	新野	0

26（5）7MT（2）11

○…本田はいぜん不調。大江一人の三菱に10分まで2—1、ようやくそのあと5点を加えてリードを奪ったが、佐藤、長谷川らの個人技に頼ったもので、組織攻撃はあまりなかった。後半は田上が大活躍、15分18—6と大勢を決めた。

三菱は大江が積極的に動き、後半は岡村、山川らでゴールしたが散発的。（山田　稔）

湧永薬品（大阪）15（8—5　7—6）11 大崎電気（埼玉）

	【大崎】	得	【湧永】	得
GK	岩下	0	今井	0
FP	飯田	0	高橋	4
FP	東	6	戸田	0
FP	荒井	1	津川	3
FP	井手	0	穂積	3
FP	橋本	0	森	0
FP	沢田	3	木野	5
FP	坂口	0	市原	0
FP	前渕	0	田中	0
FP	佐藤	1	大山	0
FP	谷口	0	藤井	0

15（3）7MT（1）11

○…いきなり大崎が5—1とリード、この差を湧永が追って面白い展開になった。湧永は29分6—6から穂積のゴールで逆転、後半開始直後3点を加え10—7としたのだが、突き放すまでには至らず大崎に20分10—10と粘られた。

残り5分となって湧永は木野の巧技などで4点をもぎとり押し切った。大崎では東の活躍が光った。（山田　稔）

【個人得点5傑(第2週まで)】①田上(本田)、大江（三菱）各13③花輪（大同）12④川島(三景)、柳川弟(大同)、佐藤(本田)、佐々木（三景）各11

三菱レ、湧永に善戦

第3週　6月8日、大阪市中央体育館で2試合、9日には岩国市体育館、岐阜県民体育館、四日市市緑地中央体育館で各

1試合の計5試合が行われた。

▽大阪（観衆千）

大同製鋼 16（8－8 8－6）14 湧永薬品

【湧永】		得
GK	今井	0
FP	木野	3
	森	1
	高橋	2
	戸田	2
	津川	4
	穂積	2
	市原	0
	田中	0
	大山	0
	藤井	0

【大同】		得
GK	柳川兄	0
	倉谷	0
FP	野田	1
	加藤	0
	中井	1
	松原	6
	花輪	4
	柳川弟	4
	藤中	0
	北村	0
	守田	0
	中本	0

（審・新村 東）

16（1）7MT（2）14

○……大同は立上り野田のダイビングシュートで先行、松原の大活躍によってたえず先手々々をとっていたが、湧永も木野の巧みなリードによって新人津川、穂積にボールを集め、思い切ったプレーで追撃、後半に興味をつないだ。

大同は後半5分10－7と開き、松原、柳川弟のポスト、サイド、花輪のロングなどでその後も押し気味だったが、湧永もよく粘り、個性味のあるプレーで17分12－12と追いついた。

大同はすぐに2点をあげて引きはなしたが、湧永は残り5分になってから再び盛り返し26分津川、28分森で14－14、引き分けかとみえた。

しかし大同はこのあと湧永のパスミスからチャンスをつかみ28分40秒、29分10秒の2回松原が貴重なゴールをあげ勝負をつけた。近来にない好試合であった。（山田 稔）

大崎電気 24（14－6 10－5）11 三菱レイヨン大竹

【三菱】		得
GK	藤本	0
	村本	0
FP	田中	0
	善本	3
	岡村	1
	山川	1
	岩本	0
	大江	5
	末広	0
	沖重	1
	重村	0
	武田	0

【大崎】		得
GK	岩下	0
FP	飯田	6
	東	1
	荒井	5
	沢田	3
	井手	2
	橋本	3
	小松原	1
	坂口	3
	前渕	0
	谷口	0

（審・井上 望月）

24（1）7MT（0）11

○……前半大崎のスピードと巾広いチームプレーに三菱ディフェンスはついていけず5点差となった。

後半も大崎のペースで10分17－6と大差がつき、特に飯田が長身を利して相手ディフェンスの上から射つシュートは威力があった。

三菱は大江がよく動きポイントしたが、総合力の差ははっきりしており順当な結果だった。（山田 稔）

▽岩国（観衆八百）

湧永薬品 24（13－11 11－9）20 三菱レイヨン大竹

【三菱】		得
GK	藤本	0
	村本	0
FP	田中	0
	善本	2
	岡村	0
	山川	5
	岩本	1
	大江	12
	池田	0
	沖重	0
	重村	0
	武田	0

【湧永】		得
GK	今井	0
	福井	0
FP	森	1
	戸田	2
	高橋	8
	木野	1
	穂積	8
	津川	4
	大山	0
	藤井	0
	田中	0
	市原	0

（審・柳井 上田）

24（8）7MT（3）20

○……前半10分までは湧永の速攻セットからの得点で5－2とリードし、このままのペースで進むかとみえたが、三菱は早いつぶしで相手オフェンスを止め、山川の右サイドからのシュート、あるいは大江の多彩なシュートで20分には7－7のタイにした。

その後一進一退をつづけたが終了間際湧永は二本の7MTなどで2点のリードを奪った。

後半、湧永は穂積のゴール、7MTで2点を追加、13－9としこのリードでその後の戦局を余裕をもって進めることができた。

三菱は12分15－17、24分18－21と追いすがったが追い抜くところまではいかず善戦にとどまった。12点をあげた大江をはじめ三菱の健斗が讃えられる一戦だった。（村瀬）

三景、大同製鋼を破る

▽岐阜

三景 21（11－13 10－6）19 大同製鋼

【大同】		得
GK	柳川兄	0
	倉谷	0
FP	花輪	5
	柳川弟	5
	松原	3
	野田	2
	加藤	1
	石川	0
	北村	0
	藤中	3
	守田	0
	中本	0

【三景】		得
GK	佐藤	0
FP	佐々木	4
	加藤	1
	高梨	4
	内藤	3
	喜田	0
	山村	4
	川島	5
	大森	0
	保谷	0

（審・吉田 吉川）

21（2）7MT（2）19

○……大波乱だった。残り4分大同がやっとの思いで19－17としたあと、三景は4点を連取、逆転勝ちした。26分川島、26分20秒内藤でタイ、勢いにのって28分高梨が逆転、残り20秒佐々木がダメを押したものである。

この逆転劇の前に、もう一幕、迫力満点の大同の反撃ドラマがあった。後半20分14－17とリードされた大同は22分加藤のゴールを口火として26分までに花輪、松原、藤中があっという間に連続5点、19－17としたのだ。

誰もが大同の勝利を信じ、まさか、このあとの4分間で三景が気迫の逆転を演じるとは思わなかった。

○……大同は前日の湧永戦の疲れが残り、しかも中井が欠場（社用）、藤中も足の負傷で本調子といえず本領の厚味のある攻撃、特にポストプレーが活かせなかった。またロングも三景の高い守りに乱されゴール枠の外へ流れる不調。

巧者揃いの三景は10分4－1と先行、GK佐藤の美技も手伝って25分には9－4とリード、後半なかばまで、その優位をつづけていた。三景の攻撃には、大同の「ゾーン・マン・ツウマン」に対する研究のあとがみえた。

優勝争いに響く一戦とあり気迫に満ちた好試合。（吉田良仁）

成功の主役・三景

優勝をリーグ戦で争うシステムはめずらしくないが、各地転戦という試みは日本ハンドボール界では史上初。

すべての面で注目された大会だが、まずまずのデキ。「日本リーグ」への露払い役は充分に果したのではなかろうか。

リーグ成功の主役は三景。第3週（岐阜）大同製鋼を破り、この一戦でムードががぜん高まり、最後まで興味をつないだ。

コート上の熱気に比べ観客動員は、新システムになじみが薄いせいか、もう一つ伸びを欠いた。それでも岩国に於ける三菱レイヨン四日市での本田技研の健斗など、地元意識を育てる芽はいくつもあった。前途有望とみたい。

ビッグカード大同×湧永戦（6月8日、大阪）がTV中継されたのもPRに役立った。放映回数増加は次回の一課題。

運営面では、やはり実連の人不足を否めない。各チームから委員を出してプール、専従させないと、こういう大会は難しい。

よい意味でのファンサービスも一工夫欲しい。ともあれ強豪激突、ベテラン、新人の個人技など内容的には一流揃いだけに申し分なく、国内最上位のレベルアップを印象づけた。

沖重選手（三菱）を表彰

全日本実連は、第1回大会（昭35）以来連続出場の沖重順陸選手（三菱レ大竹、FP、岩国工出、38才）を開会式で特別表彰した。

▽四日市

本田技研 20（7—2 13—6）8 大崎電気

【大崎】得 GK 岩下0 FP 東1 荒井2 飯田2 井手2 橋本0 沢田0 小松原0 坂口1 谷口0 佐藤0

【本田】得 GK 細野0 牧原0 FP 柳2 勝田3 田上4 佐藤5 新実2 加藤0 宮川2 矢野0 新野0 長谷川2

20（2）7MT（1）8

【個人得点5傑（第3週まで）（後記未着）】①大江（三菱）30、②花輪（大同）21、③柳川弟（大同）20、④松原（大同）、田上（本田）各17

湧谷薬品調子あげる

第4週　6月22日、府中・東京重機工業体育館で2試合、23日（最終日）は横浜・平沼記念体育館で2試合の計4試合が行われた。

▽府中

湧永薬品 25（13—4 12—5）9 本田技研

【湧永】得 GK 今井0 FP 戸田0 木野7 森3 高橋5 津川4 穂積4 市原0 大山0 田中1 藤井1

【本田】得 GK 細野0 牧原0 FP 田上2 長谷川3 勝田0 柳2 佐藤1 新実0 加藤0 宮川1 矢野0 新野0

（審・佐分、大塚）

9（1）7MT（2）25

○……本田が互角に試合を進めたのは前半6分まで。そのあとは湧永の一方的なペース、森、穂積らで25分には11—2と開いた。

本田は攻撃にまったく切れ味がなく、点差があくとディフェンスまで気力をなくし、よいところがなかった。後半も同率時のために"貯金"を狙う湧永が手をゆるめず快勝。

三景 21（12—10 9—7）17 大崎電気

【大崎】得 GK 岩下0 FP 荒井4 橋本0 井手3 東2 飯田6 沢田2 坂口0 佐藤0 前淵0 谷口0

【三景】得 GK 佐藤0 小林0 FP 佐々木4 内藤5 高梨1 宮田0 山村4 川島3 加藤4 大森0 保谷0 高森0

（審・佐野、近藤）

21（2）7MT（2）17

○……大崎は飯田の復調で13分5—3とリードしたが、好調の三景は14分内藤の得点を口火に加藤、佐々木、山村、川島らで6点連取20分9—5と優位に立った。

大崎もこのあと井手の活躍で後半7分12—14まで追いあげたが、三景は後半なかばから再びリズムをつかんで加点、25分20—14とし初優勝へ大きく前進した。（泉　正明）

三景、後半にリード許す

▽横浜（観衆千）

湧永薬品 19（7—9 12—8）17 三景

○……三景は初優勝を意識して固くなるのでは、と思われたが開始4分までに速攻から高梨、加藤、佐々木がゴール、3—0と上々のスタート。

【三景】得 GK 佐藤0 小林0 FP 佐々木2 加藤4 高梨2 内藤2 宮田0 山村2 川島5 高森0 大村0 保谷0

【湧永】得 GK 今井0 FP 木野5 高橋5 市原0 森0 戸田0 大山0 田中1 藤井0 津川2 穂積6

（審・柏葉、永山）

19（1）7MT（0）17

湧永は、パスのタイミングが悪く凡失を重ね、三景は7分4—2とリードを保った。

このあとにも再三好機があったのだがラインクロスなどで逃し約13分間無得点。まだ始まったばかりであり、この逸機はさして勝負に影響しないと思えたのだが、結果的には、湧永の調子が整わぬここで一気に引きはなしておくべきだったのだ。

○……後半、微妙なことから三景は崩れた。

2分20秒湧永のスカイプレーは田中が着地すれすれにシュートを放って得点、着地後とみていた三景陣はまだ1点リードしていたのだが動揺、ベテラン揃いの湧永にたたみかけられ3分木野で同点、5分高橋に逆転されたあと、さらに2点を失い、10分には9—12と主導権を奪いとられてしまった。

○……12分になって三景は加藤で返し、なお逆転のスリルをはらんだまま一進一退をつづけたが、ディフェンスが立ち直った湧永に要所をおさえこまれ、前半とは逆に2点差がどうしても縮らない。

25分15—18から三景は26分川島がゴール、望みを残り3分にかけたが、29分高橋に手痛いシュートを浴び3点差、15秒後、佐々木がミドルを射ちこんだが残り時間はなく、初優勝は夢に終った。

熱のこもった好試合で、湧永の老巧な試合ぶりが、特に光った。（杉山　茂）

大同製鋼 27（14—4 13—7）11 大崎電気

【大崎】得 GK 岩下0 FP 東0 飯田5 荒井3 橋本0 井手0 佐藤1 沢田2 坂口0 谷口0 前淵0

【大同】得 GK 柳川兄0 倉谷0 FP 中井4 野田1 花輪4 松原4 柳川弟3 加藤1 藤中7 石川1 守田2 中本0

（審・斎藤、住尾）

27（2）7MT（1）11

○……大同は、得点差に関係なく勝てば優勝。ベストメンバーでスタートしたが、なんとこれは昨冬12月（全日本総合）以来のことだという。

開始9分で4—0と先行した大同は、大崎攻撃陣が飯田、荒井の個人技に頼るだけとみるや、大たんなディフェンスからマイボールを得て一気の速攻、鮮やかなフォロープレーで、ノーマーク同ようの形から強シュートをたてつづけに突き刺した。前半終了時に10点差がつき早々と優勝"当確"。後半の興味は、花輪の得点王挑戦だけとなったが、7MTを2回失敗するなど力みすぎでこれは成らなかった。

大崎は、攻守にまったく自信がうかがわれず、5位に転落してしまった。（杉山　茂）

☆個人表彰選手

▽最優秀選手　松原光三（大同）

▽得点王　大江隆夫（三菱）

▽最優秀新人　穂積豊彦（湧永）

▽ベストセブン　GK・佐藤（三景）、FP・松原、花輪（以上大同）、木野（湧永）、佐々木（三景）、佐藤（本田）、大江（三菱）

日本実業団リーグ（男子）

	同	湧	景	本	大	菱	P	勝	分	負	得	失	差
①大同	…	○	●	○	○	○	8	4	0	1	106	64	42
②湧永	●	…	○	○	○	○	8	4	0	1	97	73	24
③三景	○	●	…	○	○	○	8	4	0	1	95	76	19
④本田技	●	●	●	…	○	○	4	2	0	3	70	73	
⑤大崎	●	●	●	●	…	○	2	1	0	4	71	94	
⑥三菱レ	●	●	●	●	●	…	0	0	0	5	66	125	

【個人得点10傑】①大江隆夫(三菱)30, ②花輪(大同)25, ③川島(三景)・高橋(湧永)各24⑤穂積(湧永)・柳川弟(大同)各23, ⑦木野(湧永)・佐々木(三景)・松原（大同）各21⑩田上(本田), 飯田(大崎)各19＝本誌調べ

湧永、大同へ「お返し」

□……最終日、会場入りした大同製鋼の各選手は「今度は湧永がウチに優勝をプレゼントしてくれる番」と云っていた。

47年12月の全日本総合（東京）で大同が優勝最短距離に居た大崎電気を破ったため、湧永薬品の優勝となったケースがある。今回は湧永が三景を破れば、大崎戦を残す大同がぜん有利となる勘定。

思惑どおり、湧永が三景を降して、この時点で湧永4勝1敗、得失点差24、三景4勝1敗、得失点差19。前日まで得失点差26の大同がニンマリするところとなった。

□……優勝を決めたあと大同・中浜監督は「三景戦を落としたのは誤算でした。転戦での日程消化は調整面でいろいろ難しいことがあります。」と苦しいあとをふりかえったが、すぐに「今年も全タイトルいただきたいし、9月の東ドイツ戦もなんとか一矢をと思っています」と強気な言葉が出てきた。

三洋電機、豊田工機破り優勝
会長杯争奪女子実業団

全日本実業団選手権（7月盛岡）に参加を断念したチームによる第2回全日本実連会長杯争奪全国女子実業団大会が6月8、9日の2日間岐阜市・岐阜県民体育館に4チームを集めて行われ、リーグ戦の結果、地元・三洋電機が初優勝した。なお、この大会のベストセブンは、GK丹羽（三洋電機）、FP伊藤、古沢（以上三洋電機）、黒柳、都築（以上豊田工機）、杜（伏原紡織）東納（大和銀行）だった。

豊田工機（愛知）13（10−3・3−5）8 伏原紡織（愛知）
三洋電機（岐阜）13（6−5・7−6）11 大和銀行（大阪）
豊田工機 9（6−4・3−3）7 大和銀行
三洋電機 12（4−2・8−3）5 伏原紡織
伏原紡織 9（7−5・2−3）8 大和銀行

伏原紡織 9（0）7MT（1）8 大和銀行

【伏原】		得
GK	中山	0
	駒村	0
FP	末光	0
	一政	1
	平田	0
	島田	3
	深見	2
	杜	2
	鎌田	0
	松尾	0
	小金丸	0
	山崎	0

【大和】		得
GK	小島	0
FP	沢村	0
	倉	0
	河野	2
	東納	4
	田守	1
	前野	0
	小元	1
	茶野	0

三洋電機 11（5−4・6−5）9 豊田工機

11（1）7MT（0）9

【三洋】		得
GK	森	0
	丹羽	0
FP	大川	0
	古沢	5
	岩木	0
	下之段	0
	竹田	0
	辻	2
	坂本	0
	菊田	0
	伊藤	3
	小野木	0

【豊田】		得
GK	今村	0
FP	藤田	1
	都築	4
	近藤	2
	新実	1
	浜口	0
	黒柳	1

【順位】①三洋電機3戦全勝②豊田工機2勝1敗③伏原紡織1勝2敗④大和銀行3敗

○……去年は選手権と併行して行われた大会。

4チームの実力は紙一重で、三洋×伏原戦以外はすべて後半なかばに勝負が決まる接戦だった。

選手権クラスに押しまくられ、ともすればチーム存続の意欲さえなくしてしまうより、こうした同程度のせりあいのなかから上位への希望を抱くほうがチームにも組織にも得策である。

年度内にもう一度二次リーグとして顔合せをし、通算成績で順位を決めるのも手だろう。

優勝争いとなった三洋×豊田は一カ月前の東海実業団で豊田が7点差をつけており、去年1位の実績からも有利とみられたが、三洋は古沢を中心とした先制攻撃に成功、優位に試合を進めた。

豊田は後半二度ほど同点に追いついたが、三洋は10分伊藤、14分辻で9—7、豊田も15分藤田が返して迫ったが、三洋はすぐ古沢が連続ゴールを奪い突き放した。豊田はつねに後手にまわっていた。

女王ビクターに挑む立石電機

〜モントリオールへの第一歩〜

3日から 全日本女子実業団（盛岡）

女子界の有力チームによる新シーズン初の激突、第15回全日本実業団女子選手権は7月3日から7日まで、盛岡市の岩手県営体育館に8チームが集って開かれる。

モントリオールオリンピックにつながる世界選手権候補選手選考の資料となるほか、有力新人の登場、旧大洋デパート勢による立石電機（熊本）の参加など話題も多い。優勝の行方をさぐってみよう　（編集部）

優勝争いにも響くA組

大会は参加8チームを、4チームづつ2組に分けた予選リーグのあと、各組上位2チームによって決勝リーグを争う。

まず予選A組。岩井、GK西村を中心にカムバックを狙う大崎電気が、負傷者続出に悩み、一歩遅れている感じだが、あとの3チームは伯仲、もつれそうだ。

重機はエース牧野がヒザの故障でエントリーからはずれこの穴をどう埋めるかがカギ。古佐原が相変らず元気だが、当然各チームにマークされるだろうから市川、菊地、折口、村上らの出来にすべてがかかる。鈴木の退部もひびきそうである。GKは三紙で固い。

ブラザーは鳥居、宮崎の両アタッカーがいちだんと鋭さを増し上り調子。原川、小森、藤浪の巧技をからめてチームカラーも変ってきている。

話題の立石。4月の関西遠征でブラザー、田村を破るなどブランクを感じさせていない。旧大洋勢から垂水、米、小原が欠けているが島田を新主将に蔵田、山下、篠田、植原らの攻撃力は速さ、巧さでは随一といってよい。GKは森山のほか和田（元大崎電気）を加え万全。大型新人・紀野（大分東高）のデビューもみものだ。

伯仲の田村紡、日立

B組は日本ビクターが頭抜けている。全日本総合（48年12月）優勝ですっかり自信をつけ、特に谷沢、蓮見、加藤、額賀、高野らのプレーがいちだんと鋭さを増し速攻のほかセットも多彩になった。要所を阿部、池田のベテランが締め穂積（涌谷高）ら新人の力も高い し、GKは鈴木、渡辺と、理想的なチーム構成である。

2位争いは田村紡、日立か。

田村は三毛、横山、松下の攻撃力は買えるが、ひところの粘りがうすくなっている感じ。この大会をきっかけにもういちど全国最上位を目指して欲しいもの。

日立は、3月のNBN杯では走りを忘れまったくよいところがなかった。鈴井、桜庭、山井、GK桑谷らでどこまで立ち直っているか。若いチームだけに、波にのれば再び旋風を巻きおこそうが、一つリズムを崩すとあぶない。

地味な努力をつづけるムネカタは遠藤を要に有賀、細谷、鈴木、GK中村らでまとまっているが上位への道はけわしそう。

ゆとりある？ ビクター

決勝リーグは立石電機、日本ビクターの進出がまず確定的。残り二席は、田村紡または日立、ブラザーまたは重機の争い。

どのような顔ぶれになっても優勝はビクター×立石の勝者が最有力になるのではなかろうか。

両者はもちろん初顔合せだが、ビクター×大洋は昨秋の千葉国体で対戦、9－7でビクターが勝っている。ビクターには精神的なゆとりがあると思う。

しかし、立石も満を持しての登場であり、周囲の〝期待〟もこれまでとはちがったものがある。いずれにせよ1〜2点差をめぐっての激戦は必至。

最大のダークホースにはブラザー工業をあげたい。それだけに予選A組は、むしろ決勝リーグよりも興味深いカードが連続していると云える。

参加チームにとってもちろん勝負は大切だがモントリオールオリンピックの〝予選〟とも云える世界女子選手権（50年12月、ソ連）を控え、場合によっては、そのアジア予選をあと9カ月以内に行わねばならないというこの時点で、国内女子界最高のレベルを誇るチーム、プレイヤーによって内容の濃い試合が展開されることを望みたい。

国内におけるはげしいせりあいこそ、モントリオールへの無二のかけ橋だし、男子同よう今大会のサーキット化（各地転戦）もそれでこそその機運が高まってくる。

特に永く第一人者として活躍したGK小原（大洋デパート）の〝引退〟であいた座へ、誰がとび出してくるかは今大会の話題の一つといえるだろう。

日本協会も、この大会を新ナショナルチーム編成（選手選考）の大きなポイントと考えており、その意味でも期待は大きい。

日程は別表のとおりだが試合開始時間は3〜6日が午後3時、7日が午前11時。

なお、昨年同時に開かれたBクラスによる会長杯戦はすでに6月岐阜で行われ三洋電機（岐阜）が優勝している。（17頁参照）

◇予選リーグ組み分け

▽A組

東京重機工業（東京）
ブラザー工業（愛知）
大崎電気（埼玉）
立石電機（熊本）

▽B組

田村紡（三重）
日本ビクター（茨城）
日立栃木（栃木）
東北ムネカタ（福島）

◇日程

▽第1日（7月3日）

ブラザー × 大崎
ビクター × 日立
重機 × 立石
田村紡 × ムネカタ

▽第2日（4日）

立石 × ブラザー
ムネカタ × ビクター
大崎 × 重機
日立 × 田村紡

▽第3日（5日）

大崎 × 立石
ムネカタ × 日立
重機 × ブラザー
ビクター × 田村紡

▽第4日（6日）

・5〜8位決定リーグ
A組3位――B組4位
B組3位――A組4位
・決勝リーグ
A組1位――B組2位
B組1位――A組2位

▽第5日（最終日・7日）

・5〜8位決定リーグ
A組4位――B組4位
A組3位――B組3位
・決勝リーグ
A組2位――B組2位
A組1位――B組1位

日本のハンドボールを世界の最高峰へ！

（協賛者御芳名・順不同）

☆★☆★☆★☆

海外トピックス

杉山　茂
（NHK運動部）

各国、新戦力養成に力こぶ

ヨーロッパ各国は、全国リーグのつづいている東欧の一部を除いてはシーズン・オフ。もっぱら話題は新戦力に集っている。

5月以降行われた二つの国際大会も、いわゆるBチーム主体のものだった。

まず、マドリッド（スペイン）での4カ国対抗はスペイン、スイス、カナダの各Bとスペインユースが参加、若い層が充実しているといわれるスペインBが3勝（45得点、26失点）で1位となった。

モスクワ国際は、ソ連がレギュラーを送ったほかは西ドイツB、チェコB、モスクワ選抜の4チームで争われ、ソ連が順当に3連勝した。

また、世界ユース開催（一九七七年＝本誌既報）のニュースをうけて、早くもユース（19才以下）の国際大会がデンマークで開かれている。

「北欧ユース選手権(男)」で、北欧5カ国が出場、デンマーク、アイスランド、スウェーデン、ノルウェー、フィンランドの順となった。

このほか、ユースの国際試合が4月以降、女子6、男子3がIHF（国際ハンドボール連盟）へ報告されている。

オーストラリアも協会創立

このところ、新しい国でのハンドボールがしきりに伝えられているが、IHF筋はこのほどオーストラリアに協会が創立されたことを明らかにした。

オリンピック採用が刺激となって多くの学校やクラブで始められたもので、短期間にかなりの普及ぶりのようだ。オセアニア地域でハンドボールが行われるのは初。

このほか、ホンコンには現在80チーム、約千二百人の競技者が居ることが判り、イラクからはナショナルリーグを発足させたというニュースが伝えられている。

ホンコンは、今のところ屋外コートだけだが、来年にはハンドボールの行える屋内球技場ができるという。

なお、近着のIHF公報によると現在IHF準加盟国になっているのは次の5カ国である。

イラク、ナイジェリア、サウジアラビア、タンザニア、シプルス

ブカレスト貫録勝ち

東欧4カ国のトップクラブによるリーグ戦という興味ある国際大会がこのほどブダペスト（ハンガリー）で行われ名門ステアウア・ブカレスト（ルーマニア）が優勝した。

参加したのは、ブカレストのほか、デュクラ・プラハ（チェコ）、チェスカ（ソ連）、ホンブド・ブダペスト、ブッパータール、フェレンクバロス（以上ハンガリー）の6クラブ。

ナショナルチームの対戦とはちがった味のある試合がつづいたが世界選手権の優勝メンバー8人を持つステアウア・ブカレストがさすがに強く5戦全勝で優勝を飾った。

2位はホンブド・ブダペスト、3位はプラハ、チェスカ、フェレンクバロスが並び、最下位はブッパータールとなった。

個人得点は、世界選手権1位のビルトラン（ステアウア）が相変らず好調、39ゴールをあげてトップだった。

13万人が観戦　東ドイツ協会はこのほど、今春3月の第8回世界選手権（男子）の観客数を発表した。それによると総有料入場者数は一三九、四八三人。十二万程度にみた予想を上廻った。一試合平均は三、三二一人。これは二～三千人で満員となる東ドイツの体育館の収容能力からすれば上々の成果といえる。

西ドイツリーグ総決算　今季の西ドイツリーグ(男)は本誌既報のとおり、VfL・グンメルスバッハの優勝で幕を閉じたが、同国の「週刊ハンドボール」誌によると、今季の得点王は18試合で114点をあげたビッケル（ハンブルグSV）。おなじみのシュミット（グンメルスバッハ）は96点で3位だった。

リーグの観客動員は北地区が10クラブ、南地区が9クラブに増えたため総数二八〇、八〇〇人と昨年（南、北とも8クラブ）より七万人近くの増だった。

特に北1位のTUS・ベリングホーヘンは昨年の約六千から一挙に二万三千とふえた。

しかしグンメルスバッハ、フェニックス・エッセン、ハンブルクSVなど北部の人気クラブがホームゲームが多くなっているにもかかわらず入場者が減少、関係者を心配させている。

なお、屋内の今年度西ドイツ女子優勝はSVB・リバークーゼンだった。

大阪体大 得失点差で 京都産大制す

関西

◇4月26日～5月25日◇西京極体育館、大阪府立大体育館、追手門学院体育館ほか◇参加1部7校、2部7校、3部7校、4部5校、5部4校

前年のAクラス校のうち大阪経大が卒業の痛手を埋め切れず第4日同志社に敗れ、その同志社も第5日甲南戦で、前半の拙戦から辛くも引き分け後退。予想どおり大阪体大、京都産大の両校が一段上廻る実力で水をあけた。

両校は無キズのまま第8日に対戦、4たび同点から京産大は前半終了まぎわ1点をリードした。

大阪体大は後半なかば5－6から3点を連取、波にのったかとみえた。しかし京都産大もよく粘り残り時間1分40秒で8－8に追いついて、引き分けにもちこんだ。

この結果、優勝は最終日にかかり、まず京都産大が同志社を制して5勝1分、得失点差27、大阪体大は大阪経大戦に勝てば、たとえ1点差でも京都産大を上廻ることになった。

大阪体大は先取点こそ奪われたが、前半5分すぎから山内、矢辺らの活躍で主導権を握り、後半、橋本を中心に粘る大阪経大を振り切って快勝、5勝1分、得失点差51で4シーズン連続4度目の優勝を遂げた。得失点差で優勝が決められたのは2季連続、史上4度目のこと。

3位は同志社が久々に単独で入り、45年春以降つねにベストスリーに名を連ねていた大阪経大は4位となった。

このほか、結果的には全敗に終ったものの阪大が上位校に善戦したのが目立った。

個人得点1位は28ゴールをあげた新家谷隆夫（大阪大3年、天王寺高出）。注目の新人・京産大の生駒（生駒高出、184cm）は18ゴールをあげ、特にリーグ後半の活躍はみごとだった。

2部は、有力とみられた立命館が緒戦で京大と引き分け混戦を思わせたが、その後立ち直り42年秋1部転落後、初の優勝（通算では3度目）、2位もかっての1部校による争いだったが桃山学院が1敗ですませ食いこんだ。なお、入れ替え戦では、桃山が近大を破り7シーズンぶりの1部復帰を決めたが立命館のカムバックは成らなかった。

3部は激戦を神戸大が脱け出し初優勝。名門関学はいぜん不振で最下位。4部は大阪工大、大阪教大の争いから大阪工大が全勝、通算2度目の優勝、前季5部で快調の神戸商船は力足らず4敗、5部に戻ってしまった。

5部は混戦の末、姫路工大が初。なお、2部以下の個人得点1位は2部・岡野正明（桃山学院、枚方高出、46点）、3部・上村幸彦（和歌山大、追手門高出、43点）、4部・杉本明夫（大阪工大、寝屋川高出、36点）、5部・川西智樹（奈良教大、花園高出、11点）だった。

▽1部

京都産大 18（11－10、7－3）13 甲南大
同志社 25（16－6、9－5）11 近大
大阪体大 29（14－9、15－5）14 甲南大
同志社 26（11－8、15－5）13 大阪大
大阪経大 16（6－6、10－4）10 近大
京都産大 15（8－5、7－5）10 大阪大
同志社 10（6－3、4－6）9 大阪経大
大阪体大 15（8－2、7－3）5 近大
同志社 14（8－2、6－12）14 甲南（引き分け）
京都産大 19（10－6、9－3）9 近大
大阪体大 25（15－3、10－8）11 大阪大
近大 18（10－10、8－4）14 大阪大

【阪大】	得	【近大】	得
GK 山下	0	GK 岡本	0
森	0	藤田	0
FP 大山	2	FP 西野	0
松本	0	政香	2
新家谷	4	小川	6
浦池	4	石川	1
海野	1	菅	2
清見	2	西辻	5
華井	0	夏原	2
小山	1	芝田	0
片山	0	島川	0
村田	0	浜本	0

（審・椿谷、山中）

18（1）7MT（2）14

大阪経大 17（9－4、8－7）11 甲南

【甲南】	得	【経大】	得
GK 加藤	0	GK 木村	0
藤岡	0		
FP 川西	1	FP 二宮	0
中村	3	橋本	4
武田	2	石井	0
藤井	0	塩川	2
伊藤	1	太田	9
藤島	1	林	0
緒方	0	山本	0
石橋	3	石田	0
高橋	0	篠原	0
辻村	0	木下	2

（審・平井、椿谷）

17（0）7MT（0）11

甲南 19（7－10、12－8）18 大阪大
大阪体大 15（8－1、7－6）7 同志社

得	【大体】		【同志】	得
0	藤井	GK	高橋	0
1	山田	FP	入江	1
1	宇尾野		吉田	2
3	藤田		上田	1
2	根本		早瀬	0
1	矢辺		大庭	1
0	池田		松井	2
3	熊波		金田	0
0	西上		古川	0
4	丸井		滝本	0
0	北川		堀田	0
15	（1）	7MT	（0）	7

（審・藤本 福井）

京都産大 12（6―5、6―2）7 大阪経大

大阪経大 16（8―4、8―8）12 大阪大

甲南 12（6―4、6―3）9 近大

大阪体大 8（3―4、5―4）8 京都産大　引き分け

得	【大体】		【京産】	得
0	藤井	GK	日比	0
		GK	東口	0
1	山内	FP	大原	2
0	宇尾野		中前	0
0	藤田		西沢	1
1	根本		天本	1
0	矢辺		荻野	0
0	池田		島	1
1	能波		富田	0
1	西上		西田	0
4	丸井		生駒	3
0	北川			
8	（1）	7MT	（1）	8

（審・吉川 椿谷）

○……優勝をかけた試合にふさわしい熱戦だった。

先取点は3分大体大が山内であげたが、京産大は7分天本、9分大原で逆に先行、その後は一進一退から、大体大が24分丸井で4―とした。

京産大も粘り、残り3分となってから速攻でチャンスをつかみ生駒、西沢が連続得点、逆転した。

○……後半、大体大は7分5―5と振り出しへ戻したが、京産大もすかさず加点、リードを守った。

1点を争いながら終盤をむかえるかにみえたのだが、大体大は13分丸井のゴールから一気に仕掛け17分能波、22分7MT（根本）で8―6と、この試合初めて2点差がついた。

残り時間からも、このアヘッドで大体大有利と思われたが、京産大もよく反撃、23分7MT（大原）で7―8のあと、28分20秒生駒が同点のシュートを決めて、引き分けた。

京都産大 10（6―5、4―3）8 同志社

得	【京産】		【同志】	得
0	日比	GK	高橋	0
0	東口	GK		
1	大原	FP	入江	0
0	中前		吉田	0
1	西沢		早瀬	0
0	天本		大庭	1
0	荻野		松井	4
1	島		金田	0
0	富田		古川	2
2	西田		滝本	0
0	寺岡		高杉	0
5	生駒		堀田	1
10	（2）	7MT	（1）	8

（審・藤本 福井）

大阪体大 15（8―8、7―3）11 大阪経大

立命館久々の首位

▽2部

京大 15（9―8、6―7）15 立命館　引き分け

京都教大 32（15―6、17―5）11 竜谷

立命館 13（7―3、6―3）6 関大

桃山学院 18（11―5、7―1）6 追手門学院

—関西学生春季（1部男子）—

	体	産	同	経	甲	近	阪	P	勝	分	負	得	失	差
①大体大	…	△	○	○	○	○	○	9	5	1	0	107	56	51
②京産大	△	…	○	○	○	○	○	9	5	1	0	82	55	27
③同志社	●	●	…	○	△	○	○	7	3	1	2			
④大経大	●	●	●	…	○	○	○	6	3	0	3			
⑤甲　南	●	●	△	●	…	○	○	5	2	1	3			
⑥近　畿	●	●	●	●	●	…	○	2	1	0	5			
⑦大阪大	●	●	●	●	●	●	…	0	0	0	6			

【2部順位】①立命館5勝1分②桃山学院5勝1敗③関大4勝2敗④京大3勝1分2敗⑤京都教大2勝4敗⑥竜谷1勝5敗⑦追手門学院6敗

桃山学院 21（13―5、8―9）14 京大

関大 17（8―7、9―5）12 追手門学院

京都教大 17（7―3、10―2）5 追手門学院

関大 16（11―6、5―4）10 竜谷

桃山学院 27（14―9、13―4）13 京都教大

桃山学院 18（12―1、6―7）8 竜谷

立命館 21（11―14、10―4）18 追手門学院

京大 24（12―9、12―7）16 追手門学院

桃山学院 21（11―7、10―7）14 関大

立命館 25（14―9、11―6）15 京都教大

京大 16（9―3、7―4）7 竜谷

立命館 23（13―6、10―3）9 桃山学院

得	【立命】		【桃山】	得
0	関谷	GK	亀井	0
10	内田	FP	中川	4
2	松尾		三浦	0
5	為長		岡野	3
0	矢田貝		篠木	0
3	今井		平手	0
3	鈴木		堀本	0
0	阪井		中尾	2
0	松田		側垣	0
0	康		大浦	0
0	大谷			
23	（0）	7MT	（0）	9

（審・椿谷 川崎）

関大 25（10―4、15―7）11 京都教大

竜谷 17（10―8、7―5）13 追手門学院

関大 18（9―9、9―3）12 京大

立命館 25（12―6、13―7）13 竜谷

京大 23（12―8、11―11）19 京都教大

（2部の順位は別表）

神戸大が優勝遂ぐ

▽3部

天理 19―9 大阪薬大

和歌山大 22―13 関学

神戸大 17―15 和歌山大

大阪薬大 14―11 大阪府大

大阪市大 17―7 関学

和歌山大 20―16 天理

大阪市大 17―13 和歌山大

神戸大 16―9 大阪薬大

神戸大 22―14 天理

大阪府大 19―11 和歌山大

大阪薬大 15―8 関学

大阪府大 20―11 大阪市大

神戸大 16―7 関学

天理 15―13 大阪市大

大阪府大 36―18 関学

大阪薬大 13―12 和歌山大

神戸大 13（分）13 大阪市大

大阪府大 24―20 天理

天理 35―11 関学

大阪市大 14―9 大阪薬大

神戸大 20―15 大阪府大

【順位】①神戸大5勝1分②大阪府立大4勝2敗③大阪市大3勝1分2敗④天理・大阪薬大3勝3敗⑥和歌山大2勝4敗⑦関学6敗

大工大、大教大を制す

▽4部

大阪歯科大 30―9 関西外語大

大阪工大 20―18 大阪教大

大阪歯科大 15―9 神戸商船

大阪工大 23―9 関西外語大

大阪教大 23―14 神戸商船

関西外語大 11―10 神戸商船

大阪教大 28―11 大阪歯科大

大阪工大 22―12 大阪歯科大

大阪教大 23―12 関西外語大

大阪工大 14―9 神戸商船

【順位】①大阪工大4戦全勝②大阪教大3勝1敗③大阪歯科大2勝2敗④関西外語大1勝3敗⑤神戸商船4敗

姫路工大、接戦をぬける

▽5部

奈良教大 11（分）11 京都工繊大

京都工繊大 10（分）10 大阪外語大

大阪外語大 14—10 奈良教大
奈良教大 11—9 姫路工大
姫路工大 22—7 大阪外語大
姫路工大 17—7 京都工繊大

【順位】①姫路工大2勝1敗②奈良教大1勝1分1敗（得失点差マイナス2）③大阪外語大1勝1分1敗（マイナス11）④京都工芸繊維大1分2敗

桃山学院復帰なる 近大転落

▼関西学生春季リーグ各部入れ替え戦（6月2日・大阪府大体育館）

▽4～5部
関西外語大（4部④） 20—7 奈良教大（5部②）

▽3～4部
姫路工大（5部①） 21—8 神戸商船（4部⑤）
和歌山大（3部⑥） 17—11 大阪教大（4部②）
関学（3部⑦） 14—14 大阪工大（4部①） 引き分け

▽2～3部
大阪府大（3部②） 31—13 竜谷（2部⑥）
神戸大（3部①） 28—8 追手門学院（2部⑦）

▽1～2部
桃山学院（2部②） 14（8—5、6—8）13 近大（1部⑥）
大阪大（1部⑦） 23（8—6、15—8）14 立命館（2部①）

武庫川女、全勝優勝飾る

関西（女子）

◇4月27日～5月25日◇大阪府立大体育館◇参加5校

武庫川女が好調に試合を進めた最大のヤマとみられた大体大戦（第6日）も、後半8分2—3とリードされたあとディフェンスの立ち直りと辻、寺尾、三輪の巧技でチャンスを活かし逆転、押し切った。

堅実な試合運びが勝因といえるこれで2季連続2度目の優勝。

個人得点1位は13ゴールをマークの仁張由美子（甲子園短大、甲子園学院出）。

大阪教大 24（13—3、11—3）6 大阪薬大
武庫川女 10（6—1、4—2）3 大阪教大
大阪体大 18（9—2、9—2）4 大阪薬大
甲子園短大 31（12—2、19—3）5 大阪薬大
大阪体大 6（4—2、2—1）3 大阪教大
大阪体大 10（4—2、6—4）6 甲子園短大
武庫川女 24（13—2、11—1）3 大阪薬大

【順位】①武庫川女4戦全勝②大阪体大3勝1敗③甲子園短大2勝2敗④大阪教大1勝3敗⑤大阪薬科大4敗

【薬大】得			【武庫】得	
遠山	0	GK	吉田	0
		GK	田村	0
北川	2	FP	赤尾	3
沢崎	0		三輪	0
丸山	0		井上	3
上田	1		寺尾	7
岡田	0		辻	3
上野	0		小西	0
藤田	0		岩井	1
		（審・橋谷 吉川）	沢田	7
			佐野	0
			中塚	0

24（3）7MT（2）3

武庫川女 5（3—1、2—2）3 大阪体大

【大休】得			【武庫】得	
梅谷	0	GK	吉田	0
堀川	0	GK	田村	0
高木	0	FP	寺尾	2
松本	0		赤尾	1
大谷	0		辻	1
奥野	0		三輪	1
金森	2		井上	0
高市	0		小西	0
平山	0		藤本	0
船橋	1	（審・吉川 椿谷）	沢田	0
松本	0		佐野	0
			中塚	0

5（1）7MT（0）3

甲子園短大 7（4—2、3—2）4 大阪教大

【大教】得			【甲子】得	
市居	0	GK	石田	0
大柳	0	FP	神野	1
八木	0		野村	0
牧野	3		前田	0
山下	1		松下	0
永原	0		魚谷	2
佐藤	0		掛水	0
上田	0		仁張	4
		（審・保田 前田）	大音師	0
			中村	0

7（1）7MT（0）4

武庫川女 8（3—3、5—1）4 甲子園短大

芝浦工大1部へ返り咲く

▼関東学生春季リーグ各部入れ替え戦（5月30日・駒沢屋内球技場）

▽4～5部
神奈川大（5部①） 20—13 一橋（4部⑧）
千葉大（4部⑦） 16—11 東京農工大（5部②）

▽3～4部
横浜商大（3部⑦） 15—14 千葉商大（4部②）
都立大（3部⑧） 17—14 茨城大（4部①）

▽2～3部
東海（2部⑧） 18—13 青山学院（3部①）
順天堂（3部②） 13—10 千葉工大（2部⑦）

▽1～2部
芝浦工大（2部①） 22（15—4、7—5）9 東京学芸大（1部⑧）
慶応（1部⑦） 没収試合 東京教大（2部②）

前半12分5—3と東教大がリードしたところで、東教大がGK1FP11で試合にのぞんでいることが判り規則違反で没収負けとされた。

▼関東学生4部2位決定戦（5月28日・駒沢）
千葉商大 13—12 専修

千葉商大の2位が確定。この他の試合と順位は本誌前号既報。

早稲田が5連勝 3大学定期戦

第14回早・慶・明3大学定期戦は6月15日東京・早大記念公会堂で行われ、関東春季2位の早稲田が地力を示して2勝、5年連続12度目の優勝を決めた。

早稲田 32（18—11、14—10）21 明治
明治 25（15—13、10—12）25 慶応 引き分け
早稲田 25（13—7、12—5）12 慶応

【順位】①早稲田②明治・慶応

合織糸・合織混紡糸



田村紡績株式会社

社長　田　村　正　衛

四日市市東茂福町10－17
TEL 0593—65—2156（代表）
郵便番号　５１２

岡山大、11季ぶりの優勝

中四国

（第12回中四国春季学生選手権）◇5月18、19日◇岡山大ハンドボール場◇参加、1部5校、2部6校

1部は第1日に2勝をマークした岡山大、修道の争いとなった。第2日の第1戦で顔を合せた両者は、たがいに固さをのぞかせ、再三の好機を逸したが、岡山大がわずかに、守備力で修道を上廻りトップに立ち、つづく広島工大戦は苦しみながらも押し勝って43年秋以来11シーズンぶり、通算6度目の優勝を決めた。（春季選手権優勝は43年〜第6回〜以来6年ぶり4度目）

2連勝を狙っていた山口大は緒戦の岡山大戦でせりあったものの敗れ、結局1勝の4位。健闘が目立ったのは広島工大、1部で初の2勝をあげ、その他の試合も善戦をみせた。

2部は参加6校を2組に分けて第1次リーグを行い、各組同位で順位を争った末、愛媛大が広島大を延長で破り2連勝した。復調を待たれる松山商大は辛くも最下位をまぬがれただけだった。

▽1部

岡山大 12（5—5 7—5）10 山口大
広島工大 10（7—2 3—5）7 香川大
修道 21（10—5 11—8）13 山口大
岡山大 16（8—1 8—1）2 香川大
修道 15（3—4 12—2）6 広島工大
岡山大 8（5—2 3—2）4 修道
山口大 11（4—2 7—3）5 香川大
岡山大 7（5—4 2—2）6 広島工大
修道 17（8—4 9—3）7 香川大
広島工大 15（6—4 9—3）7 山口大

【順位】①岡山大4戦全勝②修道3勝1敗③広島工大2勝2敗④山口大1勝3敗⑤香川大4敗

▽2部・1次リーグ第1組

愛媛大 9—8 広島大福山
広島大福山 12—9 松山商大
愛媛大 9—8 松山商大

【順位】①愛媛②大広島大福山③松山商大

▽同第2組

近大呉工学部 11—4 山口大工学部
広島大 15—9 山口大工学部
広島大 12—9 近大呉工学部

【順位】①広島大②近大呉工学部③山口大工学部

▽同・5〜6位決定戦

松山商大 14—9 山口大工学部

▽同・3〜4位決定戦

広大福山 25—11 近大呉工学部

▽同・1〜2位決定戦

愛媛大 14（3—4 5—4 ⋮ 2—0 4—0）8 広島大

九州産大、熊商大破り連勝

九州

（第12回全九州学生選手権）◇5月18、19日◇福岡・東海大福岡教養部体育館◇参加、16校

このところ強豪ぶりを発揮している九州産大（福岡）と、熊本商大が予想どおり決勝に進出、激しい攻防戦の末、九州産大が、後半よく劣勢をくつがえす粘りを示して辛勝、2年連続優勝を飾った。

惜敗の熊本商大や宮崎大、福岡教大、鹿児島大などのレベルアップで、全般的に盛りあがりのある内容だった。3位は熊本大。過去6回優勝の西南学院（福岡）は1回戦で九州産大に押しまくられた。

▽1回戦

熊本商大 15（4—7 11—4）10 鹿児島大
宮崎大 15（7—6 8—6）12 長崎大
熊本工大 17（7—6 10—10）16 大分大
福岡工大 16（4—5 12—7）12 九州工大
熊本大 24（12—2 12—13）15 福岡大
東海 14（8—4 6—[illegible]）8 東和
福岡教大 22（13—3 9—5）8 九州大
九州産大 26（10—4 16—7）11 西南学院

▽準々決勝

熊本商大 10（3—3 7—3）6 宮崎大
福岡工大 16（5—10 11—4）14 熊本工大
熊本大 21（8—10 13—3）13 東海
九州産大 17（12—4 5—8）12 福岡教大

▽準決勝

熊本商大 30（13—5 17—7）12 福岡工大
九州産大 31（14—8 17—5）13 熊本大

▽3位決定戦

熊本大 22—10 福岡工大

▽決勝

九州産大 12（4—6 8—5）11 熊本商大

女子は山口大勝つ

中四国学連で初の女子対抗戦が5月19日岡山大で山口大×岡山県立短大の間で行われキャリアのある山口大が地力勝ちした。

山口大 13（8—1 5—2）3 岡山県立短大





鍛えぬかれたフォームにこそ、メカの真髄がある

■ジューキミシンは精密工学の結晶とうたわれる高級品。シャープなスタイリングで、その名を高めています。

ジューキ

東京重機工業株式会社

リポート

高校ハンドボール選手の実態調査

山崎正利
（中部工業大学講師）

日本ハンドボール界の競技人口のうち8割近くを占める高校生。彼らはどのようにしてハンドボールを始め、どんな気持ちを抱いてこのスポーツに親しんでいるのだろう、そして将来は？。炎天下のインター・ハイを訪ねて、こうした興味あるテーマの分析につとめた貴重なリポートが、中部工業大学（愛知県春日井市松本町）講師・山崎正利氏から寄せられた。同氏は、今夏、北九州での大会で再度調査を行う意向という。

2年後の第21回オリンピック大会（モントリオール市）では、史上初めて男女のハンドボール実施が決まっている。

そのモントリオール大会の母胎となるであろう高校生が、特別教育活動の一分野として、教育課程の中に文部省から位置づけられている運動クラブハンドボール部に所属し、ハンドボール競技の全国大会に出場した男子、女子の選手を対象に中学時代に於けるスポーツ行動、スポーツ愛好の程度を調べ、ハンドボール部に入部した動機、入部しての利点、欠点。興味を持つスポーツ種目、なやみごとの解決方法、ハンドボールをすることによって健康の保持増進に役立っているか否か、また現在行っているスポーツ活動を将来も続けていこうとしているかなどについて、各項目ごとに回答を求め、高校生のハンドボール選手の実態を把握し、今後の指導に役立てようとの目的でこの調査を行った。

調査の対象は、昭和46年8月愛媛県松山市で行われた第22回全日本高校選手権参加選手全員で、用紙配布数は男子810、女子795。回収数は男子590（回収率72・8%）、女子658（82・8%）であった。

なお調査方法は「質問紙法」を採った。

結果と考察

(1)中学時代のスポーツ行動、スポーツ愛好の程度

ハンドボール選手の中学時代におけるスポーツ行動は男子92・7%、女子93・6%と圧倒的に多く自から進んで積極的にスポーツ活動を行っていたといえよう。

スポーツ愛好（スポーツを見る聞く、読む等々）についても、男女選手とも90%に達しており、興味度の高さを示した。

(2)中学時代のハンドボール経験者

▽ハンドボールをしていた者
男子23・1%、女子17・9%
▽他のスポーツをしていた
男子67・8%、女子72・5%
▽スポーツはしていない
男子9・2%、女子9・6%

このうちハンドボール競技経験者を（地区別ブロック別）に示したのが図1である。

男子は中部、中国、近畿の順であり、女子は中部、近畿の順に多いことが判明した。

ハンドボール競技以外のスポーツ活動をおこなっていた者が、実践していたスポーツ種目を示したのが表1（次頁）である。

男子はバスケットボールが26%と最高、以下野球、バレーボールサッカーの順、女子はバレーボールの33・7%を筆頭にバスケットボール、ソフトボール、陸上競技の順になっている。

(3)入部の動機

ハンドボール部にはどのような動機で入ったのだろうか。

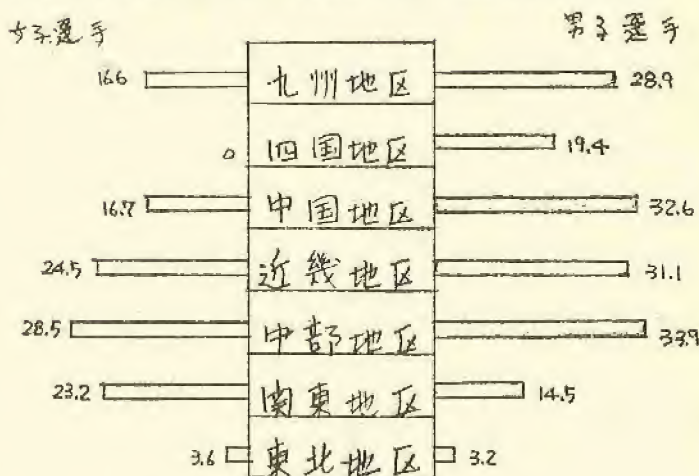
全体では先生、友人、先輩、家族に進められて入部した「勧誘型」が最も多く32・3%だった。

運動型というのは運動をするのがもともと好きなタイプ、体を丈夫にというのが健康型、ただなんとなくというのが無意識型、技術をみがき自分の力を試したいというのが技術型、精神型というのは精神力をつけるため、が動機だ。

余暇をついやすためというのが

（タイプ）	男（%）	女（%）
▽勧誘型	27・8	36・5
▽運動型	16・9	13・3
▽健康型	13・3	11・1
▽無意識型	9・3	12・0
▽技術型	11・6	7・5
▽精神型	10・4	8・1
レクリエーション型	7・7	4・5
▽友人型	2・6	6・6
▽その他	0・3	0・4

（図1）中学時代のハンドボール経験者（%）・北海道地区は男女とも0



（資料）調査対象の内訳・ブロック別回答回収数
九州地区（男90，女106），四国地区（男72，女58）
中国地区（男54，女54），近畿地区（男77，女110）
中部地区（男124，女137），関東地区（男111，女95）
東北地区（男62，女83），北海道地区（男0，女15）

レクリエーション型、友達を得るというのが友人型。

就職や進学を有利にという「実利型」やマスコミに刺激されて入部という者は極めて少かった。

本来、クラブ活動への参加は自発的、積極的なものでなければならないが、今回の結果では「勧誘型」「無意識型」が43・1%（男女計）であった。

〔表1〕 中学時代のスポーツ経験（%）左欄女子，右欄男子

4	3	2	1	順位	1	2	3	4
陸上競技 7.7	ソフトボール 16.5	バスケットボール 17.6	バレーボール 46.2	九州地区	バレーボール 42.3	バスケットボール 21.2	野球 9.6	サッカー 9.6
陸上競技 12.3	ソフトボール 12.3	バスケットボール 28.1	バレーボール 35.1	四国地区	バレーボール 30.9	バスケットボール 30.9	野球 12.7	サッカー 12.7
テニス 5.1	陸上競技 17.9	バスケットボール 20.5	バレーボール 46.2	中国地区	バスケットボール 25.0	サッカー 16.8	バレーボール 13.5	野球 12.8
バレーボール 12.7	陸上競技 14.3	ソフトボール 17.5	卓球 20.6	近畿地区	バスケットボール 25.6	野球 16.3	サッカー 12.5	テニス 11.6
卓球 13.4	陸上競技 17.5	バスケットボール 23.7	バレーボール 30.9	中部地区	野球 24.1	バスケットボール 17.7	サッカー 12.5	卓球 7.6
卓球 8.2	ソフトボール 9.6	バスケットボール 21.9	バレーボール 41.0	関東地区	野球 28.2	バスケットボール 23.1	サッカー 15.4	バレーボール 12.8
陸上競技 8.0	ソフトボール 16.0	バレーボール 26.7	バスケットボール 29.3	東北地区	バスケットボール 38.6	野球 35.1	サッカー 8.8	スキー 7.0
陸上競技 11.1	ソフトボール 11.1	バスケットボール 22.2	バレーボール 22.2	北海道地区				
陸上競技 11.3	ソフトボール 12.1	バスケットボール 21.2	バレーボール 32.7	全体	バスケットボール 26.0	野球 19.8	バレーボール 15.9	サッカー 10.3

(4)入部しての長所・短所

83・7%の者がハンドボール部に入部して「よかった」。

その理由を分類してみると

①健康になり体力がついた：28・1%
②人間的ふれあいを得ることができた：20・3%
③根性・精神力がついた：17・7%
④生活が規則正しくなった：14・2%
⑤明朗になり、積極性がついたな：11・4%

どが主なものである。

「健康になり体力がついた」は指導者のもっとも期待している点だと考える。

ハンドボールの試合はもちろんのこと、各種スポーツの試合においても緊張感にさらされながら試合を戦い抜くための体力は、最も大切な〝基礎的技術〟であると思う。体力はものごとに対するその人間の身体的能力を示すものであるが、その能力の発揮には精神力の強さもかかすことはできない。

ところで、全体の16・3%がハンドボール部に入部したことを「まずかった」「わるかった」と考えている。＝図2

その原因は「自分の時間、勉強時間が足りなくなった」が49・8%と半数に近い。

本来、クラブ活動に参加する以上、自由な時間が不足するのは当然の結果である。

しかし、クラブ活動に参加することによって、勉強時間まで不足するようになっては、勉学とスポーツの両立を願う選手にとっては重大なことである。

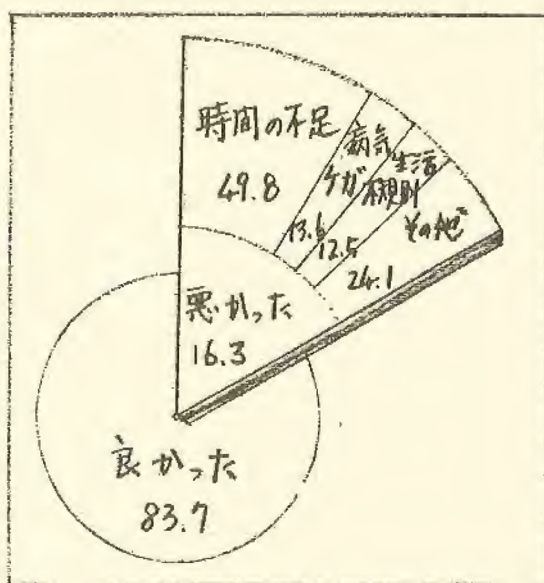
したがって、クラブの指導者は勉強時間の不足を訴える選手に対しては、練習方法や練習時間などについて再検討し、この不満を解消すべく努力する必要があると思われる。

このほかの原因では「病気や怪我をする」が13・7%と高い。スポーツと怪我の関係は強い結びつきがある。スポーツを行う時は、残念ながら一応傷害の発生を予測しなければならない。

指導者も選手も傷害の発生に対しては充分な注意をはらい、最大限にくいとめるよう努力をはらわなければならない。

病気については、クラブ活動が動機となって、以前から潜伏していた病気が激しい運動のため、はっきりした症状を現わす場合が多い。このような点からスポーツ活動による発病を防止するためには正しい健康管理のもとにクラブ活動をおこなうことが大切である。

〔図2〕 入部してどのように思うか（男女全体の比率%）



(5)ハンドボールを「辞めたい」と考えたことがあるか。

「ある」男子 82・9%
女子 87・5%

前項で80%以上の者がハンドボール部に入部して「よかった」と答えながら、実際に部活動をしていると右のような数字がはじき出されてくる。

その理由として「練習がきびしい」をあげているものが男子47・7%、女子51・6%と多い。

このほか「チーム(部)のムードが悪い」というのが男子28・7%女子27・3%もある。

この点については、指導者のチームづくりにも責任があるのではないだろうか。

しかし、選手はチーム内の人間関係に悩みながらも、厳しい練習を通じて、肉体的苦痛にも耐え、不可能を可能にするという練習の体験によって、全国大会に出場していることは、選手がハンドボール競技に愛着を持っているとも考えられる。

なお「学業成績がさがった」男子4・5%、女子3・2%。「家族が反対する」男子9・2%、女子14・2%。「チームが弱い」男子4・1%、女子1・1%。「お金がかかる」男子5・3%、女子1・8%である。

(6) 悩みごとの解決法

練習がきびしい、チームのムードが悪い、もうハンドボール部を辞めようかと思いながら部活動を続けている選手のタイプを大きく分けると「参考書を読んだり、人の話しを聞いたりして練習する」(思考派タイプ)、「理論的な思考活動にはあまり興味がなく、監督コーチのいうとおり、ただひたすらに練習を積み重ねる」(無思考派タイプ)の二つがある。

今回の調査でハンドボール選手をこの二つのタイプにあてはめてみると

男子 {無思考派 71・2% / 思考派 28・8%}

女子 {無思考派 84・5% / 思考派 15・5%}

と無思考派が多い。

前項で男子82・9%、女子87・5%が、いちどはハンドボール部退部を考えたことがあるにもかかわらず、現在ハンドボール活動を継続しているのは、ハンドボールに対する愛着心とともに、前掲の数字でも判るように、監督、コーチのいうとおりただひたすらに練習する「無思考派選手」が多いのも一つの要素である。

そのため指導者は、選手の身体的、精神的な特性や傾向、あるいは社会的、経済的環境ということに注意しながら指導にあたらなければならないと思う。

しかし指導される選手にも悩み事は多々ある。その解決方法をたずねてみると男子、女子選手とも、自分で解決するか友人に相談する選手が84%と圧倒的に多い。この中で男子選手は、自分で解決する50・9%、友人に相談する33・8%に対して、女子選手は、自分で解決する25・4%、友人に相談する59%と男子選手と逆の結果が得られた。これは男女の性格による相違と考えられる。他は、家族に相談する選手が10人に1人と少なく、まして自分達のチームの部長、監督、コーチあるいは学校の先生先輩に相談する選手は、男子6.3%女子3.4%と非常に少なく意外であった。いずれにせよ、不満や悩み事の相談相手が指導的立場にある者よりも、同輩に多いことは、横の結びつきはきわめて強いが、従のラインは非常に弱いことを示している。これでは文部省の云う学校教育の一部としてのクラブ活動の指導がなされていないとも考えられる。教育者である以上、部員の生活に精通した指導者の存在と部員相互間の心のつながりを一層深めるように努力するとともに、指導者は技術的な指導と平行して精神的な指導も積極的におこなわなければならない。

(7) ハンドボール選手が興味を示すスポーツ

中学時代に経験したスポーツ種目を表1に挙げたが表2は、高校生のハンドボール選手が、興味を持っているスポーツ種目を3種目挙げてもらい、それを集計したものである。格技、徒手体操、器械運動、陸上競技等には余り興味はなく、球技種目に高い感心度を示している。その球技種目の中でもハンドボール競技に、最も高い興味を示している。これは当然の結果といえよう。これらの選手を地区別に考察してみると、男子選手は中国地区、近畿地区、中部地区で野球が一位で、自分でプレーしているハンドボール競技に示す興味は少なく、異質な結果となっている。女子選手は、各地区ともハンドボール、バレーボール、野球と興味の点では、スポーツ種目は一致している。これは女性特有の性格ではないだろうか。

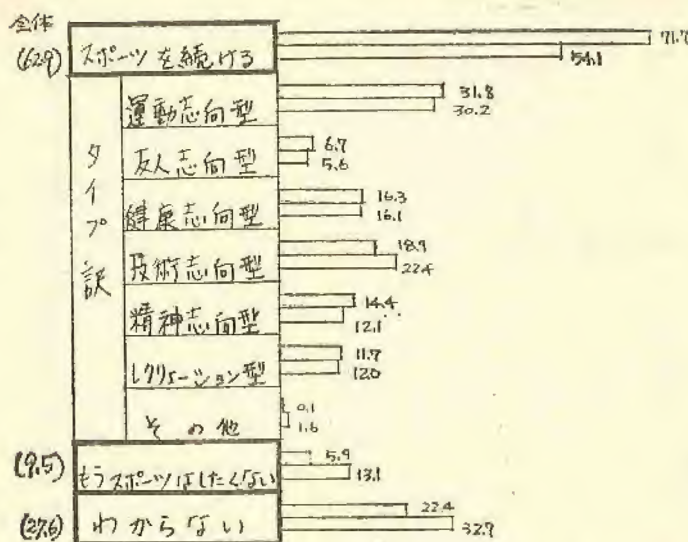
(8) 将来のスポーツ実践

約80%の選手が、練習の苦しさ、チーム間の人間関係などに苦しみ一度はハンドボールをやめようと思ったが、友達に相談したり、自分で解決して苦しみを乗越えてきた選手が将来も、スポーツを続けるか否かという点についてみたのが

〔表2〕 ハンドボール選手が興味を示すスポーツ（%）左欄女子，右欄男子

5	4	3	2	1	順位	1	2	3	4	5
バスケットボール 5.6	野球 7.1	卓球 15.5	バレーボール 18.3	ハンドボール 35.7	九州地区	ハンドボール 23.7	バレーボール 18.5	野球 15.9	サッカー 15.1	バスケットボール 9.5
水泳 5.4	バスケットボール 8.4	野球 16.2	バレーボール 22.2	ハンドボール 23.9	四国地区	ハンドボール 22.5	野球 20.3	サッカー 13.4	バレーボール 10.8	バスケットボール 10.4
サッカー 5.7	バスケットボール 8.3	野球 18.4	バレーボール 20.3	ハンドボール 25.9	中国地区	野球 28.3	サッカー 15.9	ハンドボール 13.6	バレーボール 10.6	ボーリング 6.8
バスケットボール 6.2	サッカー 6.5	野球 12.3	バレーボール 21.6	ハンドボール 29.4	近畿地区	野球 20.7	サッカー 17.8	ハンドボール 17.8	バレーボール 8.7	バスケットボール ボーリング 各5.3
サッカー 5.8	バスケットボール 9.8	野球 12.8	バレーボール 22.5	ハンドボール 23.5	中部地区	野球 22.0	ハンドボール 18.8	サッカー 17.3	バスケットボール 7.3	バレーボール 7.0
水泳 6.5	バスケットボール 6.9	野球 10.2	バレーボール 26.9	ハンドボール 27.4	関東地区	ハンドボール 30.3	サッカー 17.3	野球 15.5	バレーボール 11.3	バスケットボール 7.4
陸上競技 5.8	バスケットボール 8.8	野球 13.4	バレーボール 21.0	ハンドボール 30.3	東北地区	ハンドボール 20.8	野球 19.6	サッカー 14.3	バスケットボール 13.7	バレーボール 13.1
水泳, 体操, バドミントン 各4.5		バスケットボール 15.9	バレーボール 27.3	ハンドボール 27.3	北海道地区	—	—	—	—	—
サッカー 水泳 4.3	バスケットボール 7.2	野球 13.3	バレーボール 22.5	ハンドボール 28.5	全体	ハンドボール 21.8	野球 19.8	サッカー 16.0	バレーボール 11.2	バスケットボール 8.3

〔図3〕 将来スポーツを続けるか（%）



（注）棒グラフのうち各項目の上部が男子，下部が女子。例えば「スポーツを続ける」は男子71.7%，女子54.1%の意。

図3である。全体では「将来もスポーツを続ける」26・9％であるのに対して、「もうスポーツはしたくない」9・5％である。他の27・6％は「どうするかわからない」と答えている。これを性別にみると、男子選手は女子選手よりも、スポーツを続けたいと考えている選手が多い。以上の結果からハンドボール選手は、将来も生活の中にスポーツを導入していこうとする姿勢がうかがえる。その理由として、図3にあげているように、もともと運動をすることが好きであり、自分の技術をもう少しためしてみたい「運動、技術志向型」51・4％と最も多く、次いで健康の保持増進と精進力の向上のため「健康、精神志向型」29・7％余暇をついやしたり、気分転換や気晴らしのために行ろ「レクリェーション型」11・8％、友達を得るため「友人志向型」6・3％となっている。スポーツが好きであり、自分の技術をためすとともに、健康の保持増進と精神力向上のために、将来もスポーツを続けていこうとする選手が81・1％いることは、ハンドボール選手が、スポーツ実践を通して、スポーツの持っている効果に対する認識の深さを知ることができた。これをハンドボール入部の動機を比較検討してみると、ハンドボール活動を実践することによって、精神力の向上が計られるとともにスポーツが好きになってきている。特に自分の技術の追求に対する強い意欲が現れている。スポーツはもうしたくないと訴えている男子5・9％、女子13・1％の者は「時間的に余裕がなく無理である」が最も多い。これは、クラブ活動における欠点につながっている。女子選手には「体力が続かないと思う」と云う体力面の心配をしている選手が若干いる。このような選手こそ指導者は、教育的立場に立って指導を丹念にする必要があると考えられる。

まとめ

今回の調査によって高校ハンドボール選手の実態、傾向というものは次のようにまとめられる。

① スポーツに対する関心は高くスポーツ行動も積極的である。

② 中学時代のハンドボール経験者は全体の5分の1であるが、他の者もハンドボール以外のスポーツ経験者である。その経験種目は男子はバスケットボール、野球、女子はバレーボール、バスケットボールが各1、2位を占めた。

③ 入部の動機は、勧誘型、無意識型の入部者が43・1％と参加する態度は消極的である。

④ ハンドボールを実践することによって健康、体力の維持増進、友人の結合。社会的、精神的資質の向上という利点。自分の時間が少なくなったという短所も現れている。

⑤ クラブ活動によって、身体的精神的にも効果があると認識しながらも、85・2％の選手が「いちどは辞めたい」と考えたことがある。また、スポーツ活動に対して無思考派選手が多い。

⑥ クラブの組織は、横のつながりは強いが、縦の結びつきは非常に弱い。

⑦ ハンドボール選手の興味を示すスポーツ種目は、男子はハンドボール、野球、サッカー、女子はハンドボール、バレーボール、野球である。

⑧ 将来も好きなスポーツを通じて、自分の技術を試してみたいという明確な目的をもって、スポーツを続けていこうと考えている選手が多い。

以上の結果、高校ハンドボール選手は、クラブ活動を通じて技術を身につけ、技術を伸ばし、健康の保持増進、体力の向上さらには人間形成を、また終生変ることのない友情を育てる場としてのクラブ活動の重要性を認識することができた。なおいっそう、選手も指導者もクラブ活動の本質をとらえ選手は目的意識、ハンドボールの目標やねらいを確実に認知して、常に前向きの姿勢で活動し、また指導者は、ハンドボールの特性、内容をとらえ、正確に理解させ、選手の心身発達段階、施設環境の状況を十分に把握し、ハンドボールのも技術構造を理解して、選手をとらえることができるならばクラブ活動のもつ意義は一層充実したものになろう。

今後の問題点として、大学の受験体制やレジャー産業の大衆化に伴い、クラブ活動に対して、選手が自発性に欠け、ますます消極的になってきている傾向がある。

このように現実のクラブ活動は疎外されやすい危険性をもっている。これを食い止め、積極的に充実したクラブ活動を発展させるには、指導者、学校、家庭そして社会がクラブ活動に対して理解を深めなければならないと思う。（了）

【おことわり】 山崎正利氏からの寄稿には9図、3表が含まれていましたが、編集のつごうで一部を活字で表現しました。 （編集部）

第25回 全日本高校選手権各県予選記録（上）

☆太宇は代表校

☆6月15日まで報告分

（注・第2回締切は7月10日・次号掲載）

▽…推せん出場校

（前年度優勝校）

▽男子　名城大付属高（東京）

名城大付は2年連続5度目の出場

▽女子　小松市立女高（石川）

小松市女は10年連続10度目の出場

東北

▽……宮城県

▼男子1回戦（3試合）

仙台三 17—7 仙台二

古川 13—9 祗園寺

電子工 12—10 古川商

▽同2回戦

仙台育英 19—10 仙台三

仙台 13—9 古川工

仙台一 14—12 筑館

仙台商 21—8 鶯沢工

古川 14—10 榴ケ岡

塩釜 11—6 宮城工

東北 20—0 東北学院

宮城水産 18—10 電子工

▽同準々決勝

仙台育英 15—7 仙台

仙台一 15—13 仙台商

塩釜 10—7 古川

宮城水産 19—6 東北

▽同準決勝

仙台育英 22—6 仙台一

宮城水産 18—11 塩釜

▽同決勝

仙台育英 20—10 宮城水産

仙台育英は3年連続3度目の出場

▼女子1回戦（2試合）

古川女 10—4 祗園寺

宮城三女 10—2 一迫商

▽同準々決勝

涌谷 9—4 古川女

古川商 17—3 宮城一女

塩釜女 10—7 仙台女商

宮城二女 14—8 宮城三女

▽同準決勝

涌谷 12—3 古川商

塩釜女 6—5 宮城二女

▽同決勝

涌谷 15—4 塩釜女

涌谷は5年連続22度目の出場

▽……岩手県

▼男子1回戦

生活学園 19—6 盛岡三

一関工 37—7 盛岡市立

盛岡一 11—9 水沢

釜石南 13—6 岩手

花巻北 33—3 久慈

▽同準々決勝

盛岡商 16—8 生活学園

一関工 15—6 花巻農

盛岡一 26—6 釜石南

花巻北 15—4 盛岡四

▽同準決勝

盛岡商 21—6 一関工

盛岡一 7—3 花巻北

▽同決勝

盛岡商 14—3 盛岡一

盛岡商は3年ぶり5度目の出場

▼女子1回戦（3試合）

大原商 11—4 一関修紅

花巻農 17—0 谷村学院

平館 5—4 黒沢尻南

▽同準々決勝

花巻南 9—1 大原商

盛岡二 6—2 花巻農

花巻北 17—1 水沢

岩手女 9—3 平館

▽同準決勝

盛岡二 4—2 花巻南

花巻北 6—5 岩手女

▽同決勝

盛岡二 5（延）4 花巻北

盛岡二は9年ぶり4度目の出場

北信越

▽……石川県

▼男子1回戦

津幡 12—4 小松商

二水 20—9 金沢市工

星稜 16—3 北陸大谷

金沢商 13—12 羽咋

県工 20—10 松陵工

▽同準々決勝

小松工 23—2 津幡

小松 11—10 二水

星稜 12—11 金沢商

泉丘 20—8 県工

▽同準決勝

小松工 18—8 小松

泉丘 14—11 星稜

▽同決勝

小松工 71—9 泉丘

小松工は初出場

▼女子準々決勝（＝1回戦）

北陸大谷 17—0 珠州農

短大付 21—4 津幡

松任 11—9 金沢商

小松商 13—11 星稜

▽同準決勝

北陸大谷 11—10 短大付

松任 14—7 小松商

▽同決勝

北陸大谷 12—9 松任

北陸大谷は初出場

▽女子参考記録

小松市女 19—2 北陸大谷

小松市女 21—3 松任

小松市女は推せん出場

▽……長野県

▼男子予選リーグA組

屋代 21—5 北農

北農 12—11 小諸商

屋代 16—10 小諸商

▽同B組

上田 10—8 坂城

坂城 14—6 佐久

上田 14—2 佐久

▽同決勝トーナメント1回戦

上田 14—2 北農

屋代 14—8 坂城

▽同決勝

上田 10—6 屋代

上田は3年ぶり13度目の出場

▼女子決勝リーグ

小諸商 18—2 城南

美須々ケ丘 16—4 佐久

小諸商 13—10 美須々ケ丘

城南 10—6 佐久

小諸商 21—2 佐久

美須々ケ丘 7—0 城南

【順位】①小諸商②美須々ケ丘③城南④佐久＝小諸商は13年連続13度目の出場

▽……福井県

▼男子予選リーグA組

福井商 26—5 羽水

北陸 10—7 高志

北陸 12—11 福井商

高志 11—4 羽水

福井商 15—10 高志
北陸 10—6 羽水
▽同B組
藤島 11—10 武生商
若狭 11—8 敦賀工
若狭 17—7 武生商
敦賀工 24—12 藤島
若狭 18—10 藤島
敦賀工 25—3 武生商
▽同決勝トーナメント
北陸 15(延)13 敦賀工
福井商 13—12 若狭
▽同決勝
福井商 11—9 北陸
福井商は10年ぶり5度目の出場
▼女子予選リーグ
藤島 14—5 仁愛
高志 7—6 羽水
羽水 7—6 藤島
高志 12—0 仁愛
羽水 15—3 仁愛
高志 9—3 藤島
▽同B組
武生商 8—1 福井商
福井商 4(分)4 若狭
武生商 11—2 若狭
▽同決勝トーナメント1回戦
武生商 15—3 羽水
高志 5—2 藤島
▽同決勝
武生商 14—1 高志
武生商は3年ぶり2度目の出場

東海

▽……愛知県（中央大会）

▼男子予選トーナメント1回戦
東山工 17—11 豊橋東
熱田 12—8 安城
瑞陵 12—9 愛知工
中京 11—8 明和
豊橋南 19—12 西尾
桜台 13—5 一宮
▽同2回戦
名南工 11—5 東山工
蒲郡東 23—12 熱田
豊橋工 10—8 瑞陵
一宮西 12—7 中京
東海 13(分)13 豊橋南
抽せんで東海の勝ち
桜台 15(延)14 岡崎北
▽同3回戦
名南工 24—14 蒲郡東
豊橋工 13—11 一宮西
桜台 15—13 東海
▽同決勝リーグ
名南工 8—6 桜台
豊橋工 10—8 桜台
名南工 14—10 豊橋工
【順位】①名南工②豊橋工③桜台＝名南工は2年ぶり2度目の出場
▽男子参考記録
名城大付 10—9 豊橋工
名南工 9—8 名城大付
名城大付 12—9 桜台
名城大付は推せん出場
▼女子予選トーナメント1回戦
市邨学園 14—5 一宮
半田 6—2 名古屋商
蒲郡 11—7 東海商
安城学園 11(延)9 一宮西
高蔵 15—3 佐屋
西尾 7—6 桜台
半田商 5(分)5 国府
抽せんで半田商の勝ち
岩津 11—2 西陵商
▽同2回戦
市邨学園 13(延)8 半田
蒲郡 9—6 安城学園
高蔵 12—1 西尾
岩津 7—1 半田商
▽同決勝リーグ
市邨学園 12—2 蒲郡
岩津 3(分)3 高蔵
市邨学園 7—5 岩津
高蔵 14—3 蒲郡
高蔵 5—4 市邨学園
蒲郡 6—5 岩津
【順位】①高蔵②市邨学園③蒲郡④岩津＝高蔵は2年ぶり6度目の出場

▽……岐阜県

▼男子予選トーナメント1回戦
岐阜北 14—11 大垣北
多治見北 19—5 岐阜工高専
高山工 10—9 大垣
▽同2回戦
大垣農 23—7 岐阜北
大垣南 7—5 岐阜南
市岐阜商 20—5 岐阜工
岐阜西工 21—5 岐阜東
不破 13—5 益田
加納 20—2 各務原
県岐阜商 9—2 多治見工
岐山 15—2 高山工
▽同3回戦
大垣農 20—6 大垣南
市岐阜商 9—7 不破
岐阜西工 7—6 県岐阜商
加納 8—7 岐山
▽同決勝リーグ
大垣農 21—7 市岐阜商
岐阜西工 9—7 加納
大垣農 6—4 岐阜西工
市岐阜商 9(分)9 加納
大垣農 9(分)9 加納
市岐阜商 7—4 岐阜西工
【順位】①大垣農②市岐阜商③岐阜西工④加納＝大垣農は初出場
▼女子予選トーナメント1回戦
高山 11—7 益田
大垣南 7—3 不破
岐阜南 15—3 大垣
加納 12—1 大垣北
養老女商 10—3 本巣
岐阜北 10—9 大垣農
▽同2回戦
富田女 8—4 高山
岐阜南 7—3 大垣南
加納 13—3 養老女商
県岐阜商 14—3 岐阜北
▽同決勝リーグ
岐阜南 5—3 富田女
加納 7—2 県岐阜商
岐阜南 9—8 県岐阜商
加納 4—1 富田女
岐阜南 8—4 加納
県岐阜商 4(分)4 富田女
【順位】①岐阜南②加納③富田女・県岐阜商＝岐阜南は初出場

▽……静岡県

▼男子1回戦（3試合）
清水東 13—12 三島南
静岡東 16—12 裾野
修善寺工 13—8 静清工
▽同2回戦
静岡農 20—5 清水東
沼津東 7—0 天竜林業
御殿場南 16—11 春野
二俣 25—4 吉原商
清水商 10—8 静岡東
浜松南 16—5 御殿場
沼津工 18—15 気賀
富士 18—6 修善寺工
▽同準々決勝
静岡農 15—7 沼津東
御殿場南 16—15 二俣
浜松南 9—7 清水商
富士 25—6 沼津工
▽同準決勝
静岡農 9—4 御殿場南
富士 16—9 浜松南
▽同3位決定戦
浜松南 16—9 御殿場南
▽同決勝
静岡農 6—4 富士
静岡農は15年ぶり2度目の出場
▼女子1回戦
吉原 6—5 二俣
清水女 8—5 沼津女
御殿場 2—1 周智
清水西 10—0 富士宮東

▽同準々決勝
藤枝西 6—3 沼津工
清水商 16—3 吉原
御殿場 4—1 清水女
浜松南 3—2 清水西
静岡城北 17—2 藤枝西
▽同準決勝
清水商 10—1 御殿場
浜松南 9—5 静岡城北
▽同3位決定戦
御殿場 4—3 静岡城北
▽同決勝
清水商 8—4 浜松南
清水商は2年連続3度目の出場

近畿

▽……奈良県
▼男子1回戦
添上 14—4 東大寺
一条 22—8 橿原学院
生駒 15—8 畝傍
郡山 16—15 榛原
奈良 20—4 育英
桜井商 16(延)15 十津川
天理 18—4 奈良工
▽同準々決勝
添上 26—6 一条
奈良 32—8 桜井商
天理 12—10 生駒
郡山 15—4 正強
▽同準決勝
添上 17—6 奈良
天理 17—10 郡山
▽同決勝
添上 24—6 天理
添上は2年ぶり14度目の出場
▼女子準々決勝(=1回戦)
郡山 8—5 十津川
桜井商 15—4 帝塚山
添上 14—4 一条
生駒 15—6 奈良文女短大付
▽同準決勝
添上 12—8 生駒
郡山 8—6 桜井商
▽同決勝
添上 16—1 郡山
添上は3年連続7度目の出場

中国

▽……広島県
▼男子1回戦(1試合)
広 26—2 木江
▽同2回戦
尾道 15—11 三原工
盈進 18—1 三次工
山陽 22—1 呉商
呉港 8—7 呉三津田
瀬戸内 14—4 城北
宮原 22—0 江田島
呉工 20—6 三次
修道 14—7 広
▽同準々決勝
修道 29—5 尾道
山陽 23—8 盈進
瀬戸内 14—11 呉港
呉工 13—9 宮原
▽同準決勝
修道 9—7 山陽
呉工 16—6 瀬戸内
▽同決勝
修道 8—7 呉工
修道は3年ぶり14度目の出場
▼女子1回戦(1試合)
白木 10—0 賀茂
▽同準々決勝
第一女商 33—0 白木
呉商 9—3 宮原
進徳女 3—1 呉豊栄
山陽女 19—0 戸手商
▽同準決勝
第一女商 17—1 呉商
山陽女 9—2 進徳女
▽同決勝
第一女商 6—1 山陽女
広島第一女商は2年ぶり4度目の出場

▽……岡山県
▼男子1回戦(1試合)
矢掛 13—10 津山
▽同2回戦
水工 9—5 金川
大安寺 12(分)12 玉野
抽せんで大安寺の勝ち
津山商 没収試合 関西
津山工 6—3 倉敷工
操山 17—9 青陵
倉敷商 15—6 邑久
児島 18—9 岡山工
天城 20—6 矢掛
▽同準々決勝
天城 16—9 水工
倉敷商 9(分)9 児島
抽せんで倉敷商の勝ち
津山工 16—6 操山
▽同準決勝
天城 —
津山工 12—9 倉敷商
▽同決勝
天城 14—12 津山工
天城は2年ぶり15度目の出場
▼女子1回戦(2試合)
真備 18—1 井原
岡山女 7—5 津山
▽同準々決勝
真備 没収試合 津山商
落合 19—2 西大寺
操山 6—4 青陵
金川 7—1 岡山女
▽同準決勝
落合 5—3 真備
金川 11—5 操山
▽同決勝
金川 14—7 落合
金川は初出場

四国

▽……香川県
▼男子1回戦
高松商 22—4 上庄
高松工芸 8—6 高松一
尽誠 24—10 多度津水産
多度津工 8—7 高松
高松東 21—6 高松南
▽同準々決勝
三本松 15—6 高松商
高松工芸 14—5 丸亀
尽誠 15—7 多度津工
坂出工 30—7 高松東
▽同準決勝
坂出工 16—7 尽誠
三本松 14—5 高松工芸
▽同決勝
坂出工 14—5 三本松
坂出工は6年ぶり8度目の出場
▼女子1回戦(1試合)
高松一 6—3 高松中央
▽同準決勝
三本松 16—2 高松一
高松南 7—3 高松
▽同決勝
三本松 16—0 高松南
三本松は4年連続9度目の出場

▽……愛媛県
▼男子1回戦
吉田 14—9 松山南
新居浜商 18—11 松山商
松山北 25—10 今治南
新田 18—8 宇和島南
松山工 12—8 今治西
松山北中島 10—9 新居浜東
▽同準々決勝
新居浜工 22—0 吉田
松山北 21—2 新居浜商
松山工 17—4 新田
松山東 29—4 松山北中島
▽同準決勝
新居浜工 11—7 松山北
松山工 14—10 松山東
▽同決勝
新居浜工 10(分)10 松山工

▽同決勝再試合
新居浜工 12―11 松山工
新居浜工は2年ぶり20度目の出場
▼女子1回戦
新居浜西 8―6 今治南
今治明徳 3―2 松山西
今治西 8(延)5 西条
新居浜東 7―1 大洲農
▽同準々決勝
新居浜商 17―0 新居浜西
東温 10―0 今治明徳
土居 6―2 今治西
新居浜東 6―4 松山商
▽同準決勝
新居浜商 16―0 東温
新居浜東 4―3 土居
▽同決勝
新居浜商 13―1 新居浜東
新居浜商は4年連続7度目の出場

▽……高知県

▼男子1回戦(3試合)
須崎工 16―8 宿毛工
中村 15―14 須崎
中芸 17―5 國芸
▽同準々決勝
追手前 22―4 高知西
吾北分校 27―5 須崎工
幡多農 28―3 中村
土佐 12―3 中芸
▽同準決勝
吾北分校 8―7 追手前
幡多農 11―6 土佐
▽同3位決定戦
追手前 17―14 土佐
▽同決勝
幡多農 14―10 吾北分校
幡多農は24年ぶり2度目の出場
▼女子1回戦(2試合)
中村 13―3 佐川
中芸 21―3 山田
▽同準決勝
城山 4(延)3 中村
高知西 8―4 中芸
▽同3位決定戦
中芸 9―1 中村
▽同決勝
城山 8―3 高知西
城山は2年ぶり2度目の出場

九州

▽……沖縄県

▼男子1回戦
那覇 19―10 名護
八重山農 15―9 コザ
豊見城 16―13 北山
沖縄工 24―12 北部農
八重山商 11―8 前原
那覇工 17―14 真和志
八重山 19―13 糸満
▽同2回戦
浦添 26―6 中部工
宮古 20―9 八重山商
首里 21―17 那覇工
那覇 9―6 南部農
興南 13―10 八重山農
沖縄 15(延)13 豊見城
沖縄工 不戦勝 小禄
▽同準々決勝
知念 15―13 八重山
宮古 12―8 首里
興南 6―5 那覇
沖縄工 22―11 沖縄
知念 11―10 浦添
▽同準決勝
知念 17―8 宮古
沖縄工 17―10 興南
▽同決勝
知念 18―10 沖縄工
知念は2年連続2度目の出場
▼女子1回戦
知念 11―1 真和志
糸満 13―5 沖縄
宮古 14―7 八重山商工
小禄 14―4 コザ
豊見城 14―7 読谷
浦添 20―1 前原
▽同2回戦興
興南 17―3 南部商
本部 10―9 宜野座
那覇商 9―7 知念
八重山 不戦勝 糸満
中部商 12―9 宮古
小禄 31―1 浦添
北山 16―7 豊見城
浦添 9(延)8 首里
▽同準々決勝
那覇商 10―9 八重山
興南 23―6 中部商
小禄 18―10 北山
浦添 13―10 本部
▽同準決勝
興南 7―6 那覇商
小禄 6―4 浦添
▽同決勝
小禄 8―4 興南
小禄は3年連続7度目の出場

▽……宮崎県

▼男子予選リーグA組
日向工 17―4 宮崎南
泉ヶ丘 17―7 日向工
泉ヶ丘 24―8 宮崎南
▽同B組
宮崎工 17―5 小林工
小林工 12―10 都城商
宮崎工 17―12 都城商
▽同C組
日南工 9―8 都城工
都城工 18―3 日南
日南工 25―6 日南
▽同D組
西都商 15―6 宮崎電工
都城西 12―7 宮崎電工
西都商 22―4 都城西
▽同決勝トーナメント1回戦
泉ヶ丘 14―9 宮崎工
西都商 14―12 日南工
▽同決勝
泉ヶ丘 14―8 西都商
泉ヶ丘は3年ぶり4度目の出場
▼女子予選リーグA組
泉ヶ丘 19―2 都城商
小林商 13―1 都城商
小林商 12―10 泉ヶ丘
▽同B組
西都商 34―0 宮崎女
西都商 27―0 日南
日南 18―0 宮崎女
▽同C組
都城西 10―7 延岡
延岡 18―5 日南振徳商
都城西 25―2 日南振徳商
▽同決勝リーグ
小林商 8―4 西都商
小林商 10―9 都城西
都城西 5(分)5 西都商
【順位】①小林商②西都商③都城西
＝小林商は2年連続2度目の出場

各地速報

このほかの地区(県予選)で本誌〆切り(6月23日)までに伝えられている代表校は次のとおり。いずれも記録は次号掲載。＝順不同

◇北海道 男・函館有斗、女・函館女商
◇富山 男・氷見、女・小杉
◇三重 男・四日市工、女・津女
◇神奈川 男・慶応、女・明倫
◇栃木 男・馬頭、女・国学院
◇群馬 男・前橋商、女・桐生女
◇兵庫 男・報徳 女・県神戸商
◇熊本 男・熊本市商、女・熊本女商
◇山形 男・大石田、女・竹田女
◇大分 男・大分東、女・大分東
◇滋賀 男・彦根西、女・守山女
◇長崎 男・鹿町工、女・佐世保商
◇青森 男・弘前南、女・青森西
◇山梨 男・塩山商、女・日川
◇福岡(開催県) 男・久留米工、小倉西、女・筑紫女学園、古賀

関東高校選手権

水海道二、2連勝飾る

男子は中大附

第20回関東高校選手権は6月1日から3日間、横浜・市立東高校球技場を主会場に関東8県から男子24、女子25校が参加して行われた。

男子は有力とみられた各校が順当に勝ちあがり、上位戦はなかなか見応えがあった。

特に中大付（東京）と、準決勝で前年優勝の慶応（神奈川）を降した麻生（茨城）の両校は頭抜けた力を示し決勝で対戦、予想どおり激しいせりあいから中大付が後半一気に勝負を決め、2年ぶり5度目の優勝を飾った。東京代表の優勝は2年ぶり14度目。

女子は、実力伯仲で1、2回戦16試合のうち4試合が延長、3点差以内で結着の試合が10もあったほど。

ベストエイトには群馬を除く各県の代表が顔を並べたが、結局、水海道二、麻生の茨城勢が決勝へ進出、わずかな差で水海道が押し勝って2連勝6度目の栄冠を飾った。茨城代表の優勝も2年連続6度目。

麻生は男女とも惜しくも準優勝にとどまったが、みごとな健闘をみせた。

▽男子1回戦
湘南通信(神)18―12浦和市立(埼)
馬頭(栃)13―9明星(東)
清水(千)18―7足利工(栃)
菖蒲(埼)15―8長坂(山)
前橋商(群)9―5吉田(山)
鶴舞(千)11―9富岡(群)
石岡商(茨)10―5法政二(神)
麻生(茨)9―7拓大一(東)

▽同2回戦
藤岡(群)17―9湘南通信
中大付属(東)19―9馬頭
清水10―8土浦工(茨)
塩山商(山)10―5菖蒲
前橋商11―7佐原(千)
慶応(神)17―13鶴舞
浦和南(埼)16―12石岡商
麻生13―7烏山(栃)

▽同準々決勝
中大付属 15（6―2、9―5）7 藤岡
清水 8（5―1、3―5）6 塩山商
慶応 19（8―2、11―3）5 前橋商
麻生 4（3―1、1―1）2 浦和南

▽同準決勝
中大付属 21（7―4、14―4）8 清水
麻生 13（7―4、6―3）7 慶応

▽同決勝
中大付 12（6―5、6―3）8 麻生

▽女子1回戦
吉田商(山)7―5行田女(埼)
前橋女(群)10―8県商工(神)
佐原女(千)6―5市川崎(神)
桜水商(東)6―3下仁田(群)
麻生(茨)8―3都五商(東)
小山城南(栃)9―7明徳(千)
日川(山)9―6浦和市立(埼)
栃木女(栃)11(延)10石岡商(茨)

▽同2回戦
深谷女(埼)10(延)9吉田商(山)
明倫(神)18―6前橋女(群)
昭和学院(千)5(分)5佐原女
7MTコンテストで昭和学院の勝ち
水海道二(茨)9―2桜水商
麻生13―5国学院栃木
小平(東)12―7小山城南
山梨(山)5(延)4日川
栃木女10―2桐生女(群)

▽同準々決勝
明倫 7（3―1、4―2）3 深谷女
水海道二 5（3―0、2―3）3 昭和学院
麻生 12（3―1、9―2）3 小平
栃木女 6（5―4、1―1）5 山梨

▽同準決勝
水海道二 8（2―1、4―5、1―0、1―0）6 明倫
麻生 10（3―2、7―7）9 栃木女

▽同決勝
水海道二 5（2―1、3―1）2 麻生

東海男子は名南工が初

〜各地の結果・速報〜

第25回北海道高校（6月23、24日、室蘭）では、男子が函館大谷×函館有斗の決勝から函館有斗、女子は函館女商×登別の顔合せで優勝を争い函館女商が勝った。勝者はインターハイ（8月、北九州）に出場する。

第21回東海高校（6月22、23日名古屋）では、男女とも愛知勢が強味を示して決勝へ進み、男子は名南工が、昨年の全日本高校優勝校・名城大付を接戦の末、6―5で破り初優勝、また、女子は、高蔵が7―5で市邨学園を破り2連勝を遂げた。

第10回北信越高校（6月22、23日、福井）は、男子が富山勢同士の決勝から氷見が高岡商を17―9で破り優勝した。女子は小松市女（石川）が圧倒的、決勝で武生商（福井）を14―3で降し4連勝。

なお、この大会にさきがけて行われた第21回北陸3県対抗（5月富山）では、男子が小松工(石川)女子が小松市女の優勝だった。

【各地の詳報は次号】

ブラザー、田村紡破る

各地の記録

第10回東海実業団選手権は、男子が5月12日岐阜県民体育館、19日大垣市スポーツセンターに16チームを集めて、女子が12日岐阜県民体育館に5チームを集めて行われた。

男子は、大同製鋼(愛知)、本田技研鈴鹿(三重)の"日本リーグ"勢が予想どおり圧倒的な強味をみせ決勝で激突した。試合は前半13分2―2から大同が一方的に加点、期待を裏切る内容で、大同は危気なく5連勝を飾った。

本田はいぜんディフェンスが課題である。

女子は、5チームと増えたが実力はブラザー工業(三重)、田村紡(三重)が頭抜け、決勝ではブラザーが前半15分2―3から一気に6点連取、優位に立って、3年ぶり2度目の優勝をとげた。

▽男子予選トーナメント1回戦A組
大同製鋼(愛)35―6帝人製機(岐)
開発総業(三)21―14三友工業(愛)
▽同B組
二和家具(岐)棄権日野自動車(静)
新日鉄名古屋(愛) 28―11大平洋工業(岐)
▽同C組
三洋電機(岐)21―18三菱油化(三)
トヨタ車体(愛) 29―9 日本合成ゴム(三)
▽同D組
日本耐酸壜(岐) 22―19 日本碍子(愛)
本田技研鈴鹿(三) 28―8 トヨタカローラ(愛)
▽同2回戦A組
大同製鋼 33―25 開発総業
▽同B組
二和家具 25―15 新日鉄名古屋
▽同C組
トヨタ車体 20―12 三洋電機
▽同D組
本田技研 43―5 日本耐酸壜
▽同決勝トーナメント1回戦
大同製鋼 29(19―4, 10―5)9 二和家具
本田技研鈴鹿 32(13―4, 19―10)14 トヨタ車体
▽同3位決定戦
二和家具 18(8―8, 10―9)17 トヨタ車体
▽同決勝
大同製鋼 17(8―2, 9―8)10 本田技研鈴鹿

得	【本田】			【大同】	得
0	細野	GK	GK	柳川兄	0
0	牧原	GK	GK	倉谷	0
0	勝田	FP	FP	加藤	1
3	佐藤	FP	FP	中井	4
2	田上	FP	FP	野田	4
2	柳川	FP	FP	松原	3
3	長谷川	FP	FP	花輪	2
0	加藤	FP	FP	柳川弟	3
0	宮川	FP	FP	石川	0
0	矢野	FP	FP	北村	0
0	新野	FP	FP	桐山	0
0	大下	FP	FP	藤中	0
10	(1)	7MT	7MT	(1)	17

▽女子トーナメント1回戦(1試合)
豊田工機(愛知) 15(6―5, 9―3)8 三洋電機(岐阜)
▽同準決勝
田村紡(三重) 32(18―0, 14―3)3 豊田工機
ブラザー工業(愛知) 29(12―0, 17―2)2 伏原紡織(愛知)
▽同3位決定リーグ
伏原紡織 棄権 豊田工機
三洋電機 棄権 豊田工機
伏原紡織 16―11 三洋電機
▽同決勝
ブラザー工業 11(8―3, 3―4)7 田村紡

得	【田村】			【ブ工】	得
0	久保	GK	GK	井戸田	0
0	山本	GK	GK	山本	0
0	沖	FP	FP	原川	3
4	三毛	FP	FP	鳥居	2
2	横山	FP	FP	宮崎	1
0	和久井	FP	FP	小森	3
1	松下	FP	FP	鈴木	0
0	鈴木	FP	FP	国府田	0
0	金田	FP	FP	佐々木	1
0	笠	FP	FP	山口	0
0	若田	FP	FP	中川	0
0	河田	FP	FP	藤浪	1
7	(0)	7MT	7MT	(0)	11

▽男子コンソレーション・三友工業20―9帝人製機、トヨタカローラ愛知23―21日本碍子、三菱油化40―14太平洋工業(オープン)

男子は弘前南、女子青森西

▼第24回青森県下高校春季選手権(兼第10回川島杯、5月、弘前南高)
▽男子準々決勝
弘前南 9―7 三本木
青森東 16―10 五所工
野辺地 12―8 十和田工
青森 23―14 板柳
▽同準決勝
弘前南 9―6 野辺地
青森 13(分)13 青森東
(注)7MTコンテストにより青森高の勝ち
▽同決勝
弘前南 22(11―3, 11―4)7 青森
▽女子1回戦(3試合)
野辺地 7―1 鯵ケ沢
柏木農 5―3 七戸
青森西 11―5 三本木
▽同準決勝
青森 5―3 野辺地
青森西 20―4 柏木農
▽同決勝
青森西 16(8―4, 8―0)4 青森

富田女高、勝ち進む

▼第11回岐阜県春季選手権(4月加納高)
▽男子準々決勝
岐阜イーグルス 21―16 日本耐酸壜
岐阜教員 19―4 岐阜西工高
市岐阜商高 18(分)18 岐阜西クラブ
二和家具 19―7 帝人製機
▽同準決勝
岐阜イーグルス 10―9 岐阜教員
二和家具 20―10 市岐阜商高
▽同決勝
二和家具 9(6―3, 3―5)8 岐阜イーグルス
▽女子準々決勝
加納高 7―4 養老女商高
県岐阜商高 9―3 大垣農高
富田女高 8―1 益田高
三洋電機 11―2 本巣高
▽同準決勝
県岐阜商高 5―1 加納商
富田女高 4―2 三洋電機
▽同決勝
富田女高 5(3―1, 2―1)2 県岐阜商高

烏山、13年ぶりの優勝

▼栃木県高校総体ハンドボール競技(5月、国学院栃木高)
▽男子準々決勝
国学院栃木 12―8 栃木農
足利工 13―12 足利商
烏山 19―10 石橋
馬頭 27―5 足利
▽同準決勝
烏山 16―5 国学院栃木
馬頭 12―10 足利工
▽同3位決定戦
足利工 25―6 国学院栃木
▽同決勝
烏山 14(7―6, 7―7)13 馬頭
烏山商は13年ぶり2度目の優勝
▽女子決勝リーグ
小山城南 8―6 栃木女
国学院栃木 11―1 佐野女
栃木女 9―5 佐野女
国学院栃木 9―5 小山城南
小山城南 5―4 佐野女
国学院栃木 2―1 栃木女
【順位】①国学院栃木＝4連勝②小

桜明ク(名古屋)、加納(岐阜) 全国大会へ 東海中学生

第5回東海地区中学生大会は6月16日浜松市立江西中学校に、東海4県の代表男女各4チームを集めて行われた。

全国大会(8月・奈良)の予選を兼ねているとあり、若さにあふれた熱戦がつづいた。男子は名古屋の桜田、明豊両中学が連合した桜明クの圧倒的な勝利に終わり、女子は加納が決勝で静岡市立東を制し2年連続優勝を飾った。

▽男子1回戦
桜明ク(愛知) 36(20-1, 16-3)4 両河内(静岡)
境川(静岡) 13(7-6, 6-4)10 三重選抜
▽同3位決定戦
三重選抜 20(11-8, 9-6)14 両河内
▽同決勝
桜明ク 18(6-2, 12-3)5 境川
▽女子1回戦
静岡市立東 11(5-1, 6-6)7 名塚(愛知)
加納(岐阜) 8(6-1, 2-5)6 三重選抜
▽同3位決定戦
三重県選抜 6(3-2, 3-3)5 名塚
▽同決勝
加納 10(4-1, 6-2)3 静岡市立東

山城南③栃木女④佐野女

土浦工、延長で麻生破る

▼茨城県高校春季大会(5月・土浦工高)

▽男子準々決勝
麻生 18—2 日立工
水海道一 17—11 笠間
石岡商 15—8 土浦三
土浦工 23—14 江戸崎西
▽同準決勝
麻生 17—9 水海道一
土浦工 10—8 石岡商
▽同3位決定戦
石岡商 15—11 水海道一
▽同決勝
土浦工 9(4-2, 1-3 : 4-3)8 麻生
▽女子準々決勝
水海道二 10—1 八郷
石岡二 10—3 土浦三
石岡商 13—8 笠間
麻生 13—1 太田二
▽同準決勝
水海道二 6—3 石岡二
石岡商 8—7 麻生
▽同3位決定戦
麻生 7—6 石岡二
▽同決勝
水海道二 10(4-3, 6-2)5 石岡商

興南イーグルス勝つ

▼第7回沖縄県一般男子大会(5月、浦添商)=女子は既報

▽一般男子準々決勝
那覇商OB 18—15 もみじク
チューリップス 14—12 小禄高OB
琉球大 17—11 沖縄国大
興南イーグルス 16—10 知念高OB
▽同準決勝
那覇商OB 14—11 チューリップス
興南イーグルス 28—13 琉球大
▽同決勝
興南イーグルス 18(6-9, 12-8)17 那覇商OB

八幡工と彦根西が制す

▼滋賀県春季高校総体ハンドボール競技(5月、彦根東高)

▽男子準々決勝
八幡工 18—9 高島
彦根工 15—9 長浜商工
米原 28—3 彦根西
安曇川 11—10 彦根東
▽同準決勝
八幡工 9—8 米原
安曇川 14(延)12 彦根工
▽同決勝
八幡工 16(7-4, 9-6)10 安曇川
▽同準々決勝
彦根西 10—4 八幡商
高島 9—5 愛知
安曇川 5—3 米原
守山女 8—0 彦根東
▽同準決勝
守山女 6—3 安曇川
彦根西 7—0 高島
▽同決勝
彦根西 10(6-2, 4-3)5 守山女

津女、延長で地力

▼三重県高校春季大会(4月、四日市緑地体育館)

▽男子予選リーグA組順位①津工②高田③四日市中央工④海星
▽同B組①四日市工②津③亀山④四日市
▽同3位決定戦
高田 8—7 津
▽同決勝
四日市工 12(7-2, 5-2)4 津工
▽女子予選リーグA組順位①四日市②暁③上野商④四日市商
▽同B組①津女子②菰野③亀山・上野
▽同3位決定戦
暁 15—11 菰野
▽同決勝
津女子 9(3-3, 3-3 : 0-1, 3-1)8 四日市

曙ブレーキが初優勝

▼埼玉県一般社会人選手権(5月・浦和工)=男子のみ

▽1回戦(1試合)
春日部OB 23—13 大宮ク
▽準決勝
暁ブレーキ 16—12 皇山ク
春日部OB 棄権 霞会
▽決勝
暁ブレーキ 16(7-9, 9-6)15 春日部OB

自衛隊勝田順当勝ち

▼茨城県男子実業団選手権(5月・鉾田二高)

▽1回戦(3試合)
原研 24—17 武器校
霞ク 17—16 常陽銀行
施設校 21—15 鹿島石油
▽準決勝
自衛隊勝田 31—10 原研
施設校 20—18 霞ク
▽決勝
自衛隊勝田 30(18-7, 12-8)15 施設校

あすなろク、巧みな試合

▼石川県春季一般(男子)選手権大会(5月・金沢美術工芸大体育館)

▽準々決勝
あすなろク 25—10 金沢美工大
金沢工大 13—9 金沢大
小松製作所 17—10 石川教員
金沢市役所 22—11 県工ク
▽準決勝
あすなろク 18—11 金沢工大
金沢市役所 25—6 小松製作所
▽決勝
あすなろクラブ 15(7-8, 8-5)13 金沢市役所

▼第1回宮城県男子社会人対抗戦(6月・仙台)

古川工OB 21—6 マツダオート
育英高OB 16—14 宮城教員ク
仙台高OB 19(分)19 東北学院OB

日新、三菱レを押し切る

▼広島県一般男子選手権（5月・呉商）

▽準々決勝
日新製鋼呉 23—7 呉工専
広島県教職員 12—9 修道ク
三菱レ大竹 26—9 呉造船
日本鋼管福山 15—11 菊翔会

▽準決勝
日新製鋼呉 棄権 日本鋼管
三菱レ大竹 23—9 広島県教職員

▽決勝
日新製鋼呉 16（9—5、7—6）11 三菱レ大竹

中学大会記録

◇三重・第3回県大会（4月・四日市高）参加＝男3、女11校

▽男子決勝リーグ
平田野 10—6 菰野
菰野 16—12 南
平田野 15—12 南
【順位】①平田野②菰野③南

▽女子準々決勝
四日市中部 5—3 富洲原
南 13—7 笹川
菰野 10—4 北勢
平田野 12—4 明和

▽同準決勝
中部 13—3 南
菰野 5—4 平田野

▽同決勝
中部 13（延）9 菰野

◇名古屋・春季大会（5月・東港中）、参加＝男20、女14校

▽男子準々決勝
笹島 17—14 天白
桜田 12—5 名南
明豊 9—7 名塚
東港 8—4 東海

▽同準決勝
笹島 14—11 桜田
明豊 10—8 東港

▽同決勝
明豊 11—9 笹島

▽女子準々決勝
笹島 13—11 菊井
明豊 6—4 港北
桜田 12—3 鳴子台
名塚 8—3 猪高

▽同準決勝
明豊 9—8 笹島
桜田 10—6 名塚

▽同決勝
桜田 9—3 明豊

◇岩国（山口）・市中学校体育大会（5月、岩国中）、参加＝男8、女3

▽男子準々決勝
河内 10—6 北河内天尾
高水附 12—10 柱島
柱野 11（延）10 岩国
通津 11—6 北河内

▽同準決勝
河内 16—10 高水附
柱野 10—4 通津

▽同決勝
柱野 14—8 河内

▽女子1回戦
岩国 10—3 北河内天尾

▽同決勝
岩国 9—7 柱島

◇愛知・第3回県大会（5月・桜田中）参加＝男16、女16

▽男子準々決勝
桜明ク 16—10 蒲郡
名塚 14—9 東海
羽田 15—14 笹島
形原 11—10 東港

▽同準決勝
桜明ク 16—14 名塚
形原 12—10 羽田

▽同決勝
桜明ク 17（9—6、8—9）15 形原

（注）桜名クは名古屋市立桜田中と同明豊中の連合チーム

▽女子準々決勝
桜明ク 10—6 横須賀
名塚 7—5 上野
笹島 10—9 豊橋南
牟呂 16—8 乙川

▽同準決勝
名塚 11—8 桜明ク
牟呂 9—8 笹島

▽同決勝
名塚 15（9—2、6—7）9 牟呂

投書欄　明日への提言

つかまえよ、一般ファン

機関誌前々号で特集された世界選手権写真を見ていて、ヨーロッパにおける観客席が、ほとんど一般の人たちで埋っていることが判り、改めて、この面での〝彼我の差〟を痛感させられた。

機関誌昨年10月号で、ユーゴのラザレビッチ選手も、この点に触れている。日本ハンドボール界は、すぐ中高校生動員をかけるようだが一般・成人層を会場へ集める算段をしなければ発展は望めまい。

若い年令層にこそハンドボールの知名度は高まっているが、40才あたりから上の人には、なじみのうすいスポーツだ。

このハンデを埋める方法として、各大学、各高校のOB、OGが積極的に試合場へ友人を誘い、ハンドボールのよさ、面白さをPRする必要がある。

もちろん、その時に、何よりも大きな力となるのはプレイヤー諸君がベストをつくして、よい試合をしてくれることだ。

現役、OB一丸となって振興を企る施策を日本協会及び地方組織に期待します。

【千葉・半田洋二・32才】

編集後記

□……いよいよ本格的なシーズン、本誌にも各地から続々と試合のニューズが伝えられ例年どおり、今月は記録オンパレードになってしまいました。ビッグエベントつづきでとても収容しきれず、実に6年ぶり(50号以来)の増頁です

□……地方協会などでも機関誌を、という本欄(118号)に呼応するかのように岐阜協会から「はんどぼうる通信」を、大阪協会から恒例の「イヤーブック」を送っていただきました。

どちらも労作、ご苦労も多いと思いますが、いつまでも続けて下さい。

□……日本協会登録に添付してある本誌購読票に、今年ほど多くの注文が付記されていることはありませんでした。

どれもごもっともな意見、技術論、技術講座はできるだけ早く実現いたします。

試合記録をもう少し詳細にというご希望には、現行のスペースではちょっと……。

□……モントリオールまであと2年しかありません。

夏から秋へかけての国内各選手権の充実こそ、新しい目標を成就させる無二の礎でしょう。

（S・S）

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一二一号
昭和四十年六月七日
第三種郵便物認可
昭和四十九年六月二十五日印刷
昭和四十九年七月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一－一－一
電話 大代代(467)三二一一
振替 東京五八三四八番
編集兼発行人 保坂周助
定価 二百五十円
(年間購読料 二千三百円)